室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations
Muroran Institute of Technology

2011 年度

活　動　報　告　書

Annual Report, 2011

目　　次

１．報告書の発刊にあたって　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
国際交流センター長（理事・副学長）　野　口　　徹

２．国際交流センターの業務　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

３．国際交流センターの組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

４．学内及び学外の会議等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

５．国際学術交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

６．外国人留学生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

７．国際交流センター教員が担当した講義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

８．室蘭工業大学国際セミナー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

９．留学生を対象とした行事，研修等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

１０．学術交流協定校との交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

１１．学生の海外への派遣　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４６

１２．外国人短期研修生，外国人研究員，外国人インターンシップ研修生受入れ　・・　５３

１３．国際交流クラブ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５

１４．広報活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５６

１５．教員の研究活動（工学専門分野を除く）の成果　・・・・・・・・・・・・・・・　５８

１６．国際交流センターに関する新聞記事等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６０

１７．室蘭工業大学国際交流ポリシー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６３

１８．おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６４
国際交流センター准教授　　山路　奈保子

1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長（理事・副学長）　野口　徹

【本報告書の趣旨】

この報告書は，各年度の当センターの活動とその成果ならびに課題を記録し，また大学当局への報告とすることを第一の目的として，2009 年度から発行を始めたものです。今年度で 3 年目となります。報告書は学内の教職員，学生にも配布公開され，国際交流，国際活動に対する理解や支援，参画を促し，また活動に対する色々な意見や提言を戴いて，本学の国際活動のさらなる発展に繋げることも目的のひとつです。これまで，海外研究者や学生の受け入れや本学教職員学生の海外への派遣制度について有益な提言があり，色々な形で実現されるに至っています。また，この報告書についても，当センターの活動のみでなく，全学的な国際活動の記録としても機能してほしいとの提言が寄せられました。報告書はまた，地域社会ならびに全国に及ぶ関係機関にも配布しており，室蘭工大の国際活動を広く発信，広報する機会ともなっています。

この報告書が室蘭工大全体の国際活動の活性化を促し，それが本学の教育と研究の活性化，高度化に貢献するよう願っています。

【本年度の成果の概略】

この 1 年間，室蘭工大の国際活動に関連した多くの成果がありました。まず，学長裁量経費による外国人受け入れ制度および本学若手教員の海外派遣制度が整い，具体的な事例ができ始めたこと，学生の海外インターンシップ派遣ならびに海外からのインターンシップ研修生の受け入れが定常化したことが上げられます。２年前からの懸案であったマレーシアの准学士相当の学生を本学 3 年生に編入させる「JAD プログラム」も正式契約，要綱作成の段階になりました。いくつかの交流協定校とのジョイントシンポジウムや共同研究プロジェクト，教員学生の交流も益々頻繁に行われています。海外の研究者の訪問も確実に増えています。これらはいずれも実際に活動される先生方の多大なご尽力によるものです。あらためて感謝の意を表すると共に，これらがそれぞれの研究成果やより良い教育に繋がっていることを喜んでいます。

本年度の大きな成果は「国際交流ポリシー」の制定でした。急速に進む世界の高等教育の国際市場化の中で，国立大学としての室蘭工業大学がどのようなスタンスでこれに対応するかを明確にしておくことが必要です。研究の国際化は無論ですが，教育については「日本人を主対象とする基礎教育の徹底が重要，国際化は不要」から「学生の国籍に関らず，教育はすべて国際的に通用すべき」までの幅広い意見があります。その中で，国際交流委員会のワーキンググループによるほぼ半年間の議論が，基本姿勢から教育，研究，留学生数，地域貢献，運営までの６項目のポリシーとして結実しました。大規模大学とは異なる，室蘭工大の特色ある国際交流を積極的に求める内容となっています。数値目標を含む当面達成すべき目標－アクションプログラム－の策定は次年度への継続課題としました。また，日本語によらずにコースを修了できる「大学院博士前期課程英語コース」の構想も，まず「講義の英語対応化」から始める方向で進行しています。その先には海外交流協定校との単位互換，ダブルディグリー制度が射程に入っています。帰国留学生のネットワーク作りはまず中国からで，現地卒業生の献身的努力で順調に推移しています。次はマレーシア，タイへと拡大していきたいところです。遠からず室蘭工大海外オフィスの構想も

できるのではないかと期待しています。

このような多岐にわたる海外との交流，国際活動の発展には，相当の語学能力と国際感覚を持つ専門スタッフが必要ですが，これは「特定専門職員」として今年度制度化されました。これもまた大きな一歩です。大学当局のご理解に感謝するところです。さらに，旧職員会館と留学生宿舎の建物を改築し，新しく「国際交流会館」とすることが決まり，2012 年秋には竣工予定です。長期の外国人研究者の滞在への対応，留学生のより快適な室蘭生活に資するものと期待しています。センター事務室に隣接する国際交流談話室の整備も非常に効果的で，留学生同士，日本人学生との交流推進に効果を上げています。これもまた今年度の成果です。

このような成果が次年度以降も継続し，多くの留学生や外国人研究者が本学の日本人学生，教職員と共に活動し，教育と研究のより良く，より高い成果に繋がるよう願っています。

【ご挨拶】

この 3 年間，国際交流センター長として勤めてきましたが，本年度末で退職します。優秀なセンタースタッフおよび多くの教職員,それに元気な日本人学生,留学生の皆さんとともに活動し，成果を上げることができたことはこの上ない幸せでした。ご縁のあった大勢の皆さんに心から感謝し，室蘭工大と国際交流センターの益々の発展をお祈り致します。

２．国際交流センターの業務

現在の国際交流センターの業務は次のとおりである。

（１） 国際交流事業に関すること

- 外国の大学等との交流協定締結，更新等の支援事務
- 交流協定校等との交流事業，行事の支援
- 本学教職員の国際活動の支援
- 本学学生の国際性教育の支援
- 本学の国際交流推進に係わる企画と立案，その支援

（２） 外国人留学生に関すること

- 留学生（正規生，研究生，聴講学生，短期研修生，インターンシップ研修生を含む）の受入れ支援及び受入れの促進
- 留学生に対する日本語教育その他の教育と，共通教育及び専門教育の修学支援
- 留学生のための宿舎など生活支援にかかわる業務，相談への対応
- 留学生のための各種奨学金の広報，応募，申請，配分支援などに係わる業務
- 卒業，修了者も含めた留学生との交流促進

（３） 外国人研究員に関すること

- 外国からの研究員，教職員の受け入れ支援

（４） 学生の海外派遣に関すること

- 本学学生の海外留学，短期研修，国際会議参加などの支援

（５） その他，国際交流及び留学生に関すること

- 国際交流に係わる他大学，地域自治体，諸機関との連携活動

３．国際交流センターの組織

3.1　国際交流センターの構成員

2011 年度（平成２３年度）の国際交流センターの人員構成は，専任教員２名，事務職員３名及び事務補佐員２名の計７名である。センター長は理事（連携担当）・副学長が兼務している。

国際交流センター長	野　口　　徹（理事・副学長）
専任准教授	門　澤　健　也
専任准教授	山　路　奈保子
ユニットマネジャー 兼ユニットリーダー	塩　崎　泰　子
国際交流ユニット	宮　下　慎　也
国際交流ユニット	南　　圭　奈
事務補佐員	須　藤　弥　生
事務補佐員	内　藤　直　子

左より，　内藤　直子　・山路　奈保子　・門澤　健也　・　野口　徹　・　塩崎　泰子　・宮下　慎也　・南　圭奈　（敬称略）

3.2　国際交流委員会

2010 年度から，従来の兼任教員に代わり，新たに「国際交流委員会」が発足した。その任務は次のとおりである。また，議題の審議のみでなく，本学の国際交流に関連する企画立案，提言，事業実施への協力支援の機能も期待されている。

（1）　国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
（2）　外国人留学生の受入れに関すること。（外国人留学生入試に係るものは除く。）
（3）　外国人留学生の奨学金に関すること。
（4）　学生の海外留学に関すること。
（5）　外国人研究者の受入れに関すること。
（6）　外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
（7）　その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所　　属	職　名	氏　　名
国際交流センター	センター長	野　口　　徹
国際交流センター	准教授	門　澤　健　也
国際交流センター	准教授	山　路　奈保子
建築社会基盤系学科	教　授	大坂谷　吉　行
建築社会基盤系学科	准教授	吉　田　英　樹
機械航空創造系学科	教　授	平　井　伸　治
機械航空創造系学科	准教授	岸　本　弘　立
応用理化学系学科	教　授	岡　本　　洋
応用理化学系学科	准教授	澤　田　　研
情報電子工学系学科	教　授	福　田　　永
情報電子工学系学科	教　授	前　田　純　治
全学共通教育センター	教　授	二　宮　公太郎
全学共通教育センター	准教授	クラウゼ＝小野・マルギット
国際交流センター事務室	室　長	塩　崎　泰　子

クラウゼ　オノ

岡　本　　洋

岸　本　弘　立

平　井　伸　治

大坂谷　吉　行

二　宮　公太郎

吉　田　英　樹

前　田　純　治

澤　田　　研

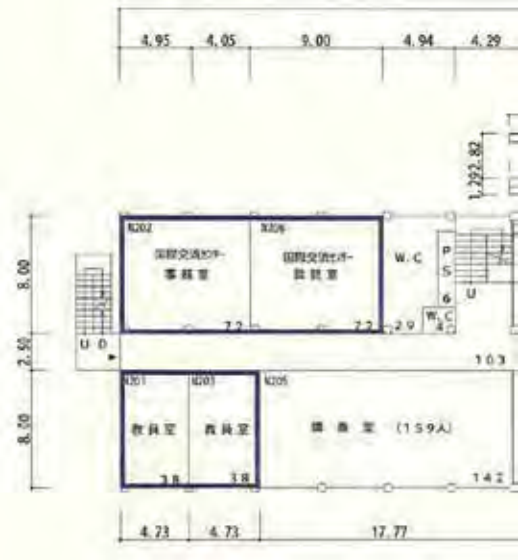
福　田　　永

3.3　センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は以下の図及び写真に示す事務室，談話室並びに 2 名の専任教員の教員室である。

2010 年度末に談話室の間仕切り工事をおこなった。留学生同士および留学生と学生，教職員の交流懇談を目的として 2 スパンの談話室が準備されているが，その半分が日本語教育の講義室ならびに国際交流委員会等の会議室として頻繁に利用されていることから，本来の機能が十分果たせていない状態であった。これを可動式の遮音壁で間仕切りし，かつセンター事務室との間にドアを設けて直接通行を可能にし，本来の交流談話の機能を十分に発揮することができるようにした。留学生教育に有効に使用することが期待されている。

国際交流センター事務室内



国際交流センター事務室と談話室との間のドア

国際交流センター談話スペース

日本語授業風景

４．学内及び学外の会議等

4.1　国際交流委員会

２０１０年４月から国際交流委員会が設けられ，国際交流センター連絡会議は廃止された。

国際交流委員会は，(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者，(2) 国際交流センター長，(3) 国際交流センター専任教員，(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員　各２名。ただし，１名は教授とする。(5) 国際交流センター事務室長，(6) その他学長が必要と認めた者が構成員となることにした。

２０１１年度の国際交流委員会の開催日及び審議事項は以下のとおりである。

第１回　　５月１６日（月）

議題１　ロシアヨッヘ物理技術研究所との学術交流協定締結について
議題２　研究生（外国人留学生）の選考について
議題３　私費外国人留学生学習奨励費受給者の選考について
議題４　室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について
議題５　国際交流ポリシーについて
議題６　特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて
報告事項１　派遣学生の選考結果について
報告事項２　民間団体奨学金受給者の選考について
報告事項３　マレーシアＪＡＤプログラムによる編入学生の受入れについて
報告事項４　アフガニスタン国未来への架け橋･中核人材育成プロジェクト(PEACE)に係る研修員受入れについて
報告事項５　平成２３年度国際大学交流セミナーについて
報告事項６　平成２３年度留学生及びその他受入れについて
報告事項７　平成２３年度国際交流センター事業計画について
報告事項８　学術交流協定校からのサマースクールについて
報告事項９　ヨーロッパ語学研修について
報告事項１０　留学生オリエンテーション
報告事項１１　中国人留学生同窓会からの義援金贈呈について
報告事項１２　その他

第２回　　６月２４日（金）

議題１　フインランド・アアルト大学電気工学部との学術交流協定更新について
議題２　室蘭工業大学外国人客員研究員規則の改正について
報告事項１　室蘭工業大学中期目標・中期計画・年度計画について
報告事項２　民間団体等からの奨学金受給者の選考について
報告事項３　国際交流ポリシーＷＧ報告について
報告事項４　アメリカの大学・機関との交流実績調査について
報告事項５　マレーシアＪＡＤプログラムによる編入学生の受入れについて

報告事項６　室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞応募状況について
報告事項７　交流協定校サマースクール応募状況について
報告事項８　２１世紀東アジア青少年大交流計画インドネシア高校生訪日団北海道）訪問について
報告事項９　中国人留学生同窓会への感謝状授与について
報告事項１０　日本学生支援機構主催外国人留学生等進学説明会について
報告事項１１　中国人帰国留学生同窓会について
報告事項１２　RMIT 語学研修について
報告事項１３　平成 23 年度大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の採用結果について

第３回　　８月１日（月）

議題１　研究生（外国人留学生）の選考について
議題２　大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ内諾について
報告事項１　民間団体等奨学金受給者の推薦について
報告事項２　室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞について
報告事項３　日本学生支援機構主催外国人留学生等進学説明会について
報告事項４　オーストラリア・ＲＭＩＴ語学研修の実施について
報告事項５　中国での人的ネットワーク強化による本学の大学連携・交流，留学生招致の推進に関する協力依頼について
報告事項６　外国人留学生見学旅行について

第４回（持ち回り）　　８月１８日（木）

議題１　フィンランド・アアルト大学電気工学部との学生交流に関する覚書の締結について

第５回　　９月２８日（水）

議題１　オーストリア・レオベン大学との交流協定の更新について
議題２　ハンガリー・ミシュコルツ大学との交流協定の更新について
議題３　特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて
議題４　室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者選考基準の改正について
議題５　室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について
報告事項１　民間団体等からの奨学金受給者の推薦について
報告事項２　オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学語学研修について
報告事項３　外国人留学生工場見学について
報告事項４　平成２３年度９月修了外国人留学生送別会について

第６回　　１２月２日（金）

議題１　ベトナム・ハノイ建築大学との交流協定の更新について
議題２　研究生（外国人留学生）の研究期間延長について
議題３　特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて
議題４　平成２４年度国内採用による国費外国人留学生（研究留学生）被推薦者の選考について
報告事項１　マレーシア人留学生逮捕について
報告事項２　留学生宿舎及び職員会館の改修について
報告事項３　オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学日本語研修受入れについて

報告事項４　外国人留学生生活安全講習会について
報告事項５　冬道安全講習会について
報告事項６　１０月受入留学生数について
報告事項７　平成２４年度留学生交流支援制度（ショートスティ，ショートビジット）募集について

第７回（持ち回り）　１２月２７日（火）

議題１　ニコラエフ無機化学研究所及び産業総合研究所との覚書の延長について

第８回　２月８日（水）

議題１　特別研究学生（外国人留学生）の受入れについて
議題２　特別聴講学生（外国人留学生）の受入れについて
議題３　室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について
議題４　大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の選考について
議題５　室蘭工業大学重点研究経費（国際連携分）受給者の選考について
議題６　短期留学推進制度（派遣）に基づく派遣留学生の選考基準等の改正について
議題７　国際交流ポリシー（案）について
議題８　平成２４年度中期計画年度計画（案）について
議題９　マレーシア政府派遣留学生の受入れについて
報告事項１　チェンマイ大学との共同セミナーについて
報告事項２　野外セミナーについて
報告事項３　平成２３年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会について
報告事項４　留学生交流会について
報告事項５　民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
報告事項６　室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞について

第９回（持ち回り）　３月２９日（木）

議題１　マラ教育財団とのＪＡＤプログラムＨＥＬＰⅢに係る覚書の締結について

国際交流委員会：国際交流ポリシー策定ＷＧ

第１回 WG 会議　平成２３年６月２０日
第２回 WG 会議　平成２３年６月２７日
第３回 WG 会議　平成２３年７月４日
第４回 WG 会議　平成２３年７月２５日
第５回 WG 会議　平成２３年８月１日
第６回 WG 会議　平成２３年１２月２６日
第７回 WG 会議　平成２４年２月１日

4.2　国際交流センター教職員打合せ会議

原則として，毎週金曜日（１１時から１２時）に，センター教職員と連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

4.3　室蘭市国際交流推進協議会

室蘭市の国際交流推進協議会に加入している団体に本学の事業等を説明し，意見交換を行っている。

開催日：５月２６日（木）

出席:野口

主　催　　室蘭市国際交流推進協議会

参加団体　室蘭工業大学

室蘭国際交流センター，室蘭市体育協会，室蘭商工会議所，室蘭文化連盟，登別室蘭青年会議所，室蘭地区高等学校校長会，胆振国際理解教育研究会，室蘭ロータリークラブ，室蘭ライオンズクラブ，室蘭市女性団体連絡協議会，国際ソロプチミスト室蘭，室蘭ルネッサンス，ノックスビルの会

本学からは，佐藤学長が室蘭市国際交流推進協議会会長として，また山路准教授が本学国際交流センター代表として出席。

議題：１. 平成22年度事業報告並びに決算報告について

２. 平成22年度監査報告について

３. 平成23年度事業計画並びに予算(案)について

4.4 マレーシア高等教育基金借款事業(HELP3) 大学説明会

開催日:6月3日(金)，4日(土)　，場所:セランゴール大学(マレーシア・クアラルンプール)

出席:酒井(しくみ情報系領域)

主催:HELP3大学説明会第63回日本マレーシア高等教育大学連合運営委員会

内容:6月3日　1. 大学説明会

2. キャンパスツアー

3. 第63回日本マレーシア高等教育大学連合運営委員会

6月4日　1. 大学説明会

4.5　外国人学生のための進学説明会

開催日:7月9日(土)，場所:サンシャインシティ文化会館展示ホールD

出席:門澤，南

主催:独立行政法人日本学生支援機構

4.6 平成23年度第1回北海道・中国交流推進連携会議

開催日:8月4日(水)，場所:かでる2．7(札幌)

出席:塩崎

主催:北海道・中国交流推進連携会議

議題1. 北海道・黒竜江省友好提携 25 周年記念に係る取組について

2. 黒竜江省代表団の来道について

3. 北海道代表団の派遣について

4. 各種周年記念行事について

5. 予算について

4.7　独立行政法人日本学生支援機構大坂日本語教育センター進学説明会

開催日:9月9日(金)，　場所:日本学生支援機構大坂日本語教育センター

出席:山路

主催:日本学生支援機構大坂日本語教育センター

4.8　東アジア高等教育質保証国際シンポジウム

開催日:9月29日(木)，30日(金)　場所:三田共用会議所(東京)

出席:山路

主催:文部科学省

基調講演　日中韓大学間交流・連携推進会議の進捗報告

日中韓大学間交流・連携推進会議共同議長　安西祐一郎

分科会A　単位互換，成績評価を伴う大学間交流プログラムの在り方

4.9 平成23年度国立大学法人留学生センター長及び留学生担当課長等合同会議

開催日:10月27日(木)，　場所:岐阜グランドホテル(岐阜市)

出席:山路，塩崎

主催:岐阜大学，長崎大学

1. 留学生政策の現状と展望

文部科学省高等教育局学生・留学生課

2. 日本学生支援機構における留学生支援事業

日本学生支援機構留学生事業部

4.10 北海道地区留学生担当教職員連絡会議

開催日:12月1日(木)，　場所:北海道大学国際本部大会議室

出席:南

主催:北海道大学国際本部留学生センター

1. 講演 「短期留学生受入れをめぐる課題と展望」

名古屋大学留学生センター教授　野水　勤

名古屋大学留学生センター准教授　石川クラウディア

2. グループ討論

4.11 平成23年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

開催日:1月16日(月)，　場所:東京大学弥生講堂

出席:塩崎

主催:東京大学

第一部　1. グローバル人材育成のための大学の国際化と学生の双方向交流の推進

文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長　坂下　鈴鹿

2. 科学技術分野における国際協力への取組
文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官付国際交流推進官　木村　賢二

3. キャンパスの国際化－グローバル・キャンパスとしてのAPU
立命館アジア太平洋大学長　　是永　駿

第二部　講演１　キャンパスの国際化－早稲田大学を例として
早稲田大学留学生センター所長　　黒田　一雄

パネルデスカッション　　キャンパスの国際化について
モデレーター:　　田中明彦（東京大学・副学長）
パネリスト（4名）:　　山上浩二郎（朝日新聞専門記者（高等教育））
辻中　豊（筑波大学・国際担当副学長）
是永　駿（立命館アジア太平洋大学・学長）
黒田一雄（早稲田大学・留学生センター・所長）

4.12 北海道留学生交流推進協議会総会

開催日:1月17日（火），　場所:北海道大学国際本部
出席:塩崎
主催:北海道留学生交流推進協議会
議題1　留学生支援事業について
報告事項1　各団体からの震災を踏まえた留学生支援及び留学生獲得に向けた取組について
2　北海道内における留学生受入等の現状について

4.13 平成23年度第2回北海道・中国交流推進連携会議

開催日:2月9日（木），　場所:かでる2．7（札幌）
出席:塩崎
主催:北海道・中国交流推進連携会議
議題1. 北海道・黒竜江省友好提携25周年記念事業と今後の交流について
2. 日中国交正常化40周年事業について
3. 予算について

4.14 第2回日本・北アフリカ学長会議

開催日:2月10日（金），11日（土）　場所:つくば国際会議場（つくば）
出席:学長，山路
主催:筑波大学国際部国際企画課
＜2月10日＞
基調講演Ｉ　「日本の高等教育の概要とグローバル人材の育成」
文部科学省大臣官房審議官　奈良　人司
パネルディスカッション１：
「新しい社会づくりを担う人材像とその育成」

「どのような人材が新しい社会に求められているか」

「それらの人材を大学がどのように育てていくべきか」

＜２月１１日＞

基調講演 II「東日本大震災と東北大学の新たなる挑戦」

東北大学総長　井上　明久

パネルディスカッション２

「『東日本大震災』『アラブの春』以降の大学」

パネルディスカッション３

「社会の諸課題の解決に向けた大学の知の蓄積の活用」

パネルディスカッション４

「新しい社会づくりに向けての大学の役割：日本と北アフリカとの連携」

4.15 平成23年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会

本学の留学生に対し，市内等の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けていることから，これら諸団体に対し本学の留学生に対する取り組み状況等を説明し，意見交換を通して理解を得ると共に，今後の留学生受入れ及び学生生活に関し，なお一層の支援を仰ぎ留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的として，以下のとおり懇談会を開催した。

開催日　平成24年2月27日（月）

場　所　蓬峠殿

主催：室蘭工業大学

出席団体　室蘭市長，室蘭市小学校長会，室蘭ロータリークラブ，登別ロータリークラブ，室蘭国際交流センター，室蘭ルネッサンス，国際ソロプチミスト，室蘭ユネスコ協会，登別室蘭青年会議所，内モンゴル教育基金，噴火湾海洋動物観察協会，NPO法人羅針盤，室蘭市女性団体連絡協議会，国際姉妹都市ノックスビルの会，北海道胆振総合振興局，北海道新聞室蘭支社，室蘭民報社

1．室蘭工業大学における留学生の受入れの現況について説明

2．意見交換

５．国際学術交流

5.1　国際学術交流協定

本学は，その教育研究活動の国際化を進めるために，外国の大学，研究機関と研究交流協定を締結し，交流の促進に努めている。最初の交流協定は 1985 年（昭和 60 年）に，アメリカオレゴン州のオレゴン工科大学との間で締結された。以後着実にその数を増加させ，2011 年度（平成 23 年度）末で 30 大学・機関に達している。

国別では中国７大学，韓国５大学，タイ２大学，アメリカ２大学，ロシア３大学・機関，ドイツ２大学，以下，オーストラリア，フィンランド，オーストリア，ハンガリー，ベトナム，ポーランド，ウクライナ，台湾が各１大学である。

2011 年度は，ロシアのヨッヘ物理技術研究所との交流協定を締結した。また，ハノイ建築大学，レオベン大学，ミシュコルツ大学，アアルト大学電気工学部及びニコラエフ無機化学研究所及び産業総合研究所との交流協定の更新が行われた。

【大学間学術交流協定】

以下のとおり，2011 年度末において国際学術交流協定は 28 大学・2 機関となっている。

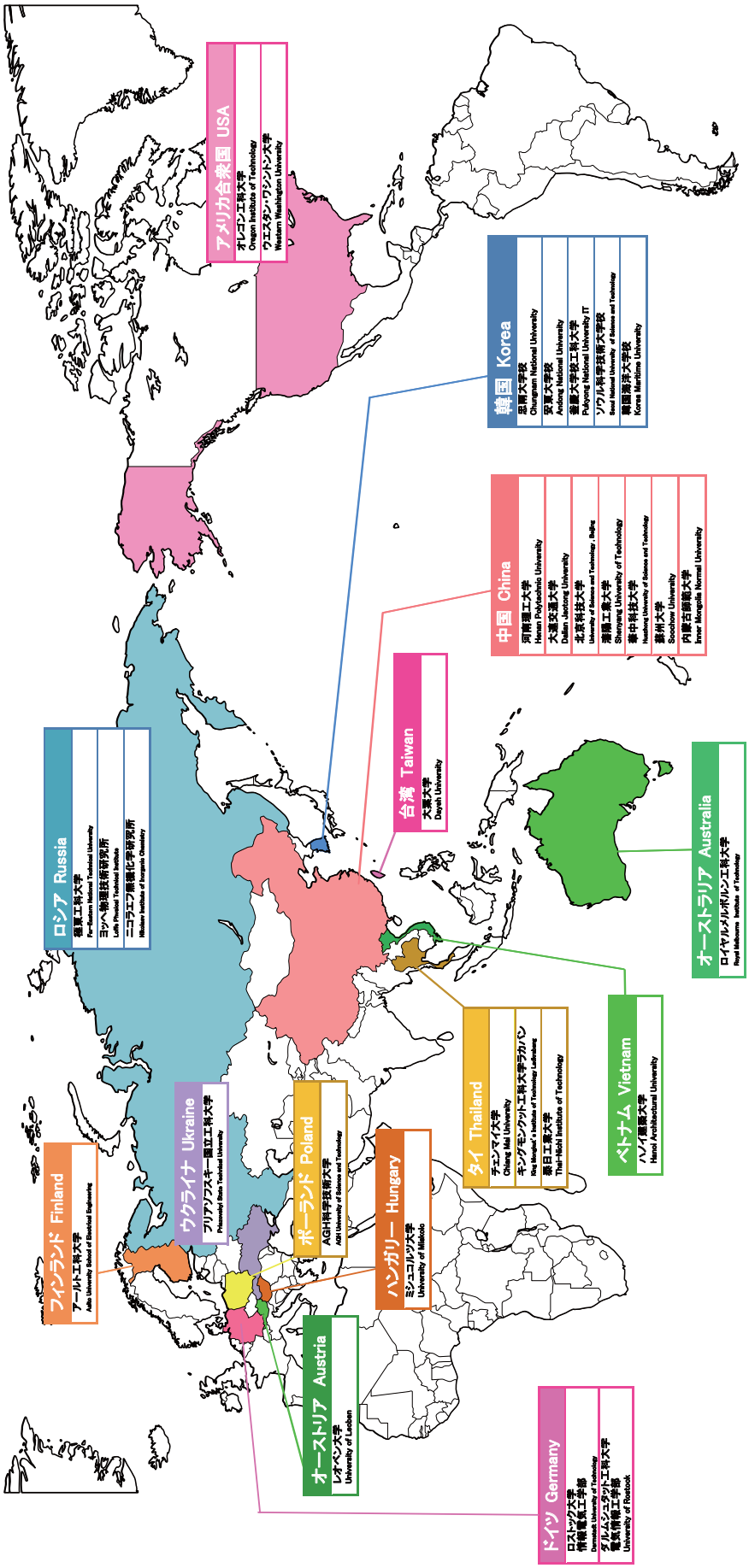
	締　結　大　学　名	国　　名	締結年月日	担当教員名
1	オレゴン工科大学	アメリカ	1985 年 10 月 17 日	
2	河南理工大学	中国	1988 年 11 月 11 日	教授　板倉賢一
3	大連交通大学	中国	1996 年 10 月　1 日	
4	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999 年　3 月 26 日	准教授 門澤健也
5	ウエスタン・ワシントン大学	アメリカ	2000 年 10 月 27 日	
6	アアルト大学電気工学部	フインランド	2001 年　3 月 15 日	教授　鈴木幸司 教授　濱　幸雄
7	北京科技大学	中国	2004 年　2 月　2 日	准教授　魚住　超
8	ロストック大学情報電気工学部	ドイツ	2004 年　2 月 20 日	准教授 川口秀樹 准教授 ｸﾗｳｾﾞ小野・ﾏﾙｷﾞｯﾄ
9	忠南大学校	韓国	2004 年　4 月 20 日	教授　濱　幸雄 教授　鈴木幸司
10	安東大学校	韓国	2004 年　6 月　8 日	教授 藤木裕行
11	釜慶大学校工科大学	韓国	2004 年　9 月　1 日	教授　中野博人 講師　長船康裕
12	チェンマイ大学	タイ	2005 年　4 月 19 日	准教授 門澤健也
13	ｷﾝｸﾞﾓﾝｸｯﾄ工科大学ﾗｶﾊﾞﾝ	タイ	2005 年　4 月 20 日	准教授 門澤健也
14	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005 年　5 月 30 日	教授　平井伸治
15	レオベン大学	オーストリア	2006 年 10 月 10 日	教授　佐藤孝紀 准教授　武田圭生 講師　松本　大樹

16	ミシュコルツ大学	ハンガリー	2006 年 11 月 13 日	教授　佐藤孝紀 准教授　武田圭生 講師　松本　大樹
17	極東連邦大学	ロシア	2007 年　1 月 19 日	教授　板倉賢一 教授　媚山政良 教授　後藤龍彦
18	ハノイ建築大学	ベトナム	2007 年　3 月 27 日	教授　木幡行宏 講師　山田　深
19	ソウル科学技術大学校	韓国	2007 年　7 月 25 日	准教授 張　傛喆
20	ﾀﾞﾙﾑｼｭﾀｯﾄ工科大学電気情報工学部	ドイツ	2007 年 11 月　9 日	准教授 川口秀樹
21	瀋陽工業大学	中国	2007 年 11 月　9 日	
22	華中科技大学	中国	2007 年 11 月 12 日	教授 施　建明
23	蘇州大学	中国	2007 年 11 月 26 日	教授 施　建明
24	内蒙古師範大学	中国	2008 年　6 月　2 日	教授　岩佐達郎
25	韓国海洋大学校	韓国	2009 年　1 月 19 日	教授　木村克俊
26	ＡＧＨ科学技術大学	ポーランド	2009 年　8 月 27 日	教授　板倉賢一 准教授　魚住　超
27	泰日工業大学	タイ	2010 年　4 月　1 日	教授　塩谷浩之 教授　藤木裕行
28	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010 年 11 月 16 日	理事　野口　徹 教授　清水一道 准教授　吉田英樹
29	大葉大学	台湾	2010 年 12 月　1 日	准教授　山路奈保子 准教授　門澤健也
30	ヨッヘ物理技術研究所	ロシア	2011 月　7 月 12 日	教授　平井伸治 准教授　関根ちひろ 助教　葛谷俊博

【三者間学術交流協定】

締　結　大　学　名	国　　名	締結年月日	担当教員名
ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2008 年 11 月 18 日	教授　平井伸治 助教　葛谷俊博
独立行政法人産業技術総合研究所	日本		

図１　本学との学術交流協定校



６．外国人留学生

6.1　留学生数

本学は，1979 年から外国人留学生を受入れており，留学生数は 2003 年の 60 名をピークに，2006 年には 45 名まで減少したが，国際交流センター設置後は，留学生数も大幅に増加し，2009 年は初めて 100 人に到達し，2012 年は 100 名を受け入れるに至った。

これまでの留学生受入れの推移を表１に，留学生数（学科別・学年別）を表２に，また，留学生数（国籍別・身分別）を表３に示す。

なお，本活動報告書は 20１１年度版であるが，10 月入学者がいることから，調査・統計の関係上，20１１年５月１日ではなく，2012 年５月１日の数字を計上した。

6.2　留学生数の推移に関する考察と展望

表１に見るように，1979 年から 1986 年までは政府派遣留学生が大半を占めており，これは国交を回復した直後の中国からの留学生がほとんどだった。

1988 年からは，当時の中曽根首相のいわゆる「留学生 10 万人計画」を受けて，国費留学生の数が増加していく。また同年から，マレーシア政府派遣留学生の受入れも始まり，留学生数は徐々に増加していった。さらに 1993 年から 2003 年ごろまでは国費留学生が安定的に配分され，2003 年には本学の留学生受入れが始まってから最大の 60 人に達した。

2007 年に国際交流センターが設置されてからは，留学生獲得のため国内・国外での広報活動に努力し，さらに国費や外国政府派遣のみに頼らない本学独自の私費留学生に対する奨学金制度を創設するなどの措置をとったため，2008 年からは増加に転じ，2009 年には，2006 年に一旦底を打った 45 人の２倍超である 100 人に到達した。

このことには上記以外に，次の３つの理由も大きいと思われる。

①学術交流協定校からの短期留学生が増加したこと。

②上記の短期留学生も含めて，在学する留学生に対する国際交流センターや本学全体の支援が，留学生に好感を持って理解され，それがそれぞれの国の留学志願者や国内の高専からの編入学希望者に伝わって，本学を志望する学生が増えたこと。

③短期留学生が本学で半年から１年学ぶ間に，本学や室蘭を気に入り，信頼できる指導教員も見つけて，その後修士課程や博士課程に再度留学してくるケースが出てきたこと。

今後の展望としては，いわゆる「留学生 30 万人計画」もあり，本学としても現在の 100 人超から，150 人，さらには 200 人以上を目標として留学生の増加を図っていくことが求められる。しかしながら，前述したように 2006 年の留学生数 45 人から，国際交流センター設置後に２年をかけて 100 人まで増やしたときには，宿舎の確保が最重要かつ緊急の課題となり，次のような措置でこれに対応した経緯がある。

①民間アパートを大学が借り上げて，既設の留学生宿舎と同じ家賃で留学生を居住させた。

②職員宿舎の一部を留学生用に転用した。

③室蘭市営アパートの一部を，本学が入退去を管理する留学生専用宿舎として確保した。

④明徳寮に留学生用の部屋を確保した。

留学生数の拡大には，奨学金及び宿舎の確保が最大の課題である。

表１　留学生数（年度別）集計（各年５月１日現在）

	工学部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小　計			合　計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100

グラフ１　留学生数（年度別）集計（各年５月１日現在）

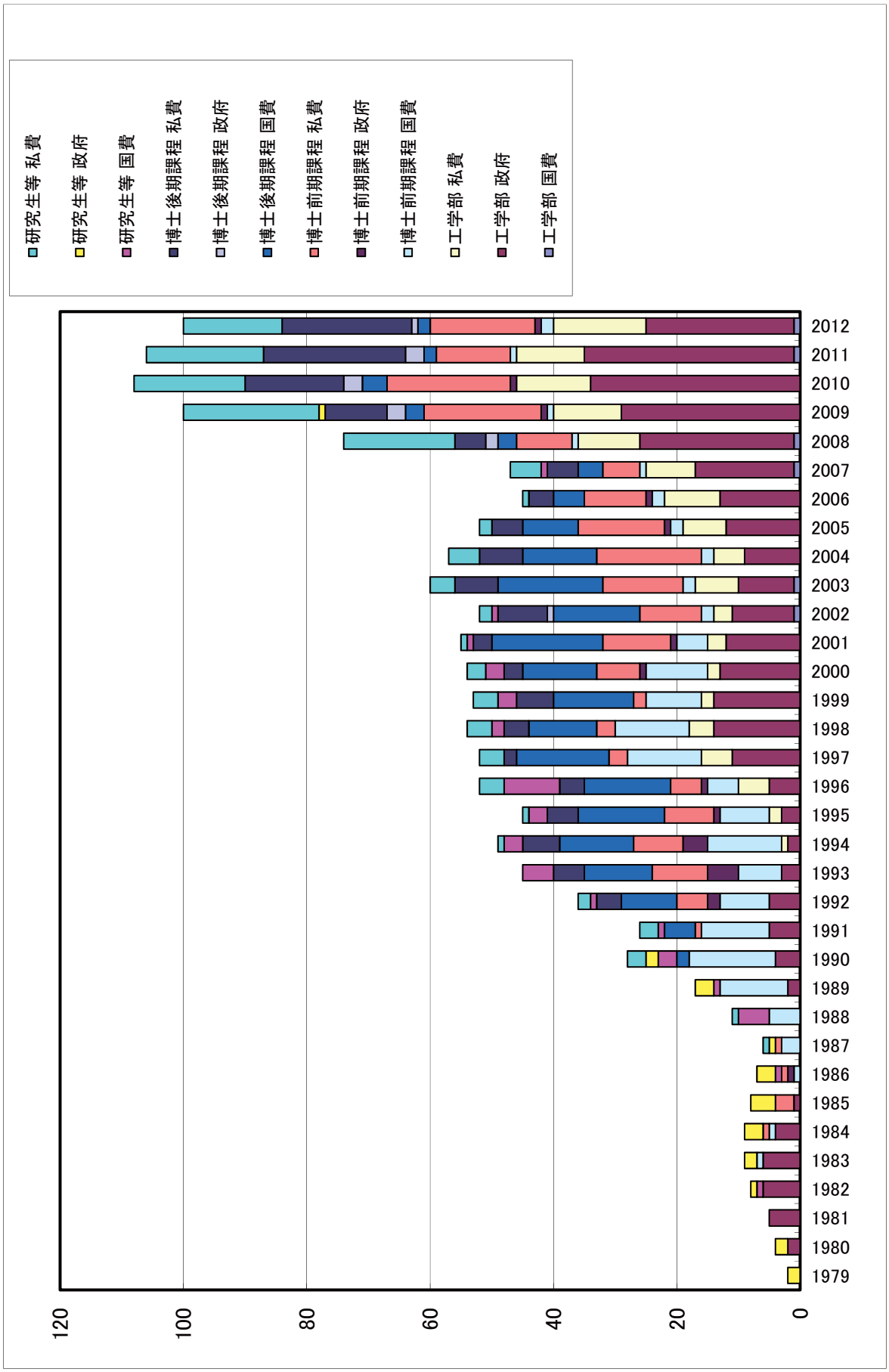


表２　留学生数（学科・学年別）集計（2012 年５月１日現在）

【学部】

学　　科　　名	１　年	２　年	３　年	４　年	合　計
建設システム工学科				1	1
機械システム工学科				0	0
情報工学科				1	1
電気電子工学科				2	2
材料物性工学科				0	0
応用化学科				0	0
建築社会基盤系学科	1	2	2	1	6
機械航空創造系学科	6	6	5	5	22
応用理化学系学科	0	0	0	0	0
情報電子工学系学科	1	1	2	4	8
合　　計	8	9	9	14	40

【博士前期課程】

専　　攻　　名	１年	２年	合　計
建築社会基盤系専攻	0	1	1
公共シスシステム工学専攻	2	0	2
機械創造工学系専攻	2	1	3
航空宇宙システム工学専攻	1	0	1
応用理化学系専攻	2	1	3
情報電子工学系専攻	7	3	10
数理システム工学専攻	0	0	0
合　　計	14	6	20

【博士後期課程】

専攻名	1年	2年	3年	合計
建設工学専攻			2	2
生産情報システム工学専攻			0	0
物質工学専攻			1	1
創成機能科学専攻			0	0
建設環境工学専攻	0	3	1	4
生産情報システム工学専攻	4	2	3	9
航空宇宙システム工学専攻	0	0	0	0
物質工学専攻	1	2	2	5
創成機能工学専攻	1	1	1	3
合　　計	6	8	10	24

【その他】

研究生	0
科目等履修生	0
特別研究学生	9
特別聴講学生	7
合　　計	16

表３　留学生数（国・身分別）集計（2012 年５月１日現在）

国　名	学　部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			合　計		
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費
中国	0	0	10	2	0	9	1	0	17	0	0	8	3	0	44
ﾏﾚｰｼｱ	0	24	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	25	7
韓国	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	5	0	0	7
ラオス	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	4
タイ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
ｴｼﾞﾌﾟﾄ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
ネパール	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ﾌｨﾘﾋﾟﾝ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合　計	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69

6.3　奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表４のとおりであり，私費留学生の７２％が奨学金を受給している。

表４　各種奨学金の受給（身分別）状況（2011 年 10 月 1 日現在）

奨　学　金　名	学　部 (12)	博士前期課程 (12)	博士後期課程 (22)	研究生 (9)	特　別研究生 (4)	特別聴講学生 (7)	科目等履修生	合　計 (66)
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金（月額 50，000 円）	1		5					6
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金（月額 30，000 円）	5	5	8					18
室蘭工業大学短期留学生（受入）奨学金（月額 50，000 円）					2			2
日本学生支援機構 21 世紀東ｱｼﾞｱ大交流（受入）奨学金（月額 80，000 円）						6		6
日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費（大学院：月額 65，000 円，学部：月額 48，000 円）	1	4	2					7
日本国際教育支援協会一般奨学金（月額 30，000 円）			1					1
北海道外国人留学生国際交流支援事業助成金（月額 20，000 円）		3						3
財団法人ロータリー米山記念奨学会奨学金（月額 140，000 円）	1	1						2
財団法人朝鮮奨学会奨学金（月額 70,000 円）			1					1
財団法人日揮・実吉奨学会奨学金（年額 250，000 円）	1			1				2
財団法人平和中島財団奨学金（月額 120，000 円）		2						2
財団法人日立国際奨学財団奨学金（月額 180，000 円）			1					1
合　　計	9	17	16	1	2	6	0	51

注１　実受給者数は，４８名である。

注２　上段（　）は，私費外国人留学生数である。

6.4 留学生用宿舎

留学生用宿舎は次のとおりである。

(1) 留学生宿舎　　:個室，12 室　(入居期間 1 年)
(2) 留学生アパート :2名入居，9室　(入居期間 1 年)
(3) 明徳寮　　:3名入居，16 室

この他に本学の宿舎ではないが，市営アパート 25 室を留学生用の宿舎として確保している。

留学生宿舎

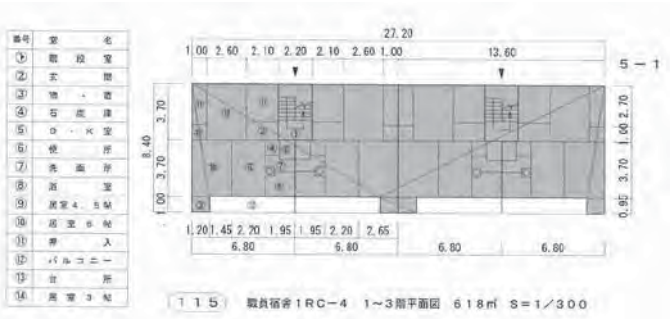
外観

廊下

個室

留学生アパート

外観

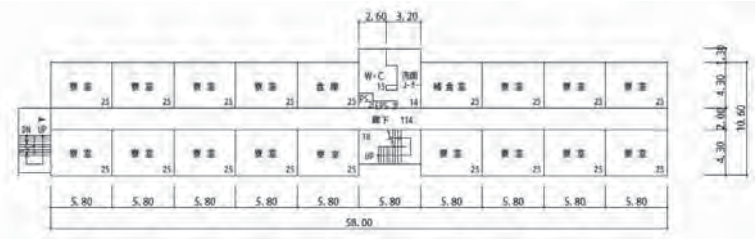


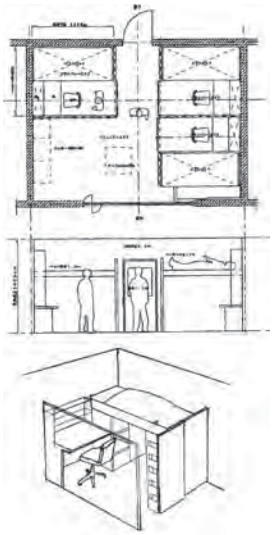
個室

台所

明徳寮　A棟４階

外観





個室ブース

補食室（各階共同）

浴室（共同）

洗濯室（共同）

市営アパート（水元団地）

外観

和室

台所

７．国際交流センター教員が担当した講義

7.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が 2011年度に担当した講義は以下のとおりである。

2011 年度前期	2011 年度後期
日本語補講	**日本語補講**
日本語初級Ⅰ	日本語初級Ⅰ
日本語初級Ⅱ	日本語初級Ⅱ
学部・大学院　日本語科目	**学部・大学院　日本語科目**
日本語 A1 （初級～中級）	日本語 A2 （初級～中級）
日本語 B1 （中級）	日本語 B2 （中級）
日本語 C1 （中級～上級）	日本語 C2 （中級～上級）
日本語 D1 （上級）	日本語 D2 （上級）
学部・大学院　共通科目	**学部・大学院　共通科目**
海外語学研修注1	異文化交流 B 注2
新冠農業実習（社会体験実習）	海外研修注1
	大学院　共通科目
	国際関係論特論

注1　海外語学研修，海外研修については第 11 章に述べる

注2　異文化交流 A（前期開講）は全学共通教育センター　クラウゼ・オノ教員が担当

7.2 日本語補講

大学院から日本へ留学する学生，および本学協定校からの交換留学生は，日本語学習経験が少ない，あるいはまったくない場合が多い。国際交流センターでは，そうした留学生を対象に，日本語補講（単位とならない）を開講している。2011年度に実施した補講は以下のとおりである。

(1) 日本語初級Ⅰ（前期）
担当：山路奈保子　　時間数：4.5 時間（3 回）／週
受講者数：6名　　使用教材：『日本語初級Ⅰ　大地』

(2) 日本語初級Ⅰ（後期）
担当：山路奈保子　　時間数：4.5 時間（3 回）／週
受講者数：8名　　使用教材：『日本語初級Ⅰ　大地』

(3) 日本語初級Ⅱ（前期）
担当：高久裕子（非常勤講師）　　時間数：3 時間（2回）／週
受講者数：7名　　使用教材：『日本語初級Ⅱ　大地』

(4) 日本語初級Ⅱ(後期)

担当:高久裕子(非常勤講師)　　時間数:3 時間(2回)／週

受講者数:4名　　使用教材:『日本語初級Ⅱ　大地』

7.3 学部・大学院　日本語科目

正規の日本語科目は，前期・後期それぞれ A～D までの 4 科目が開講された。これらの科目はレベル別対応であると同時に，学生の様々なニーズにも対応するものとした。大学院留学生は，研究そのものは英語で行うケースが増えつつある。そうした学生には，読み書きのための日本語よりも日常生活や研究室でのコミュニケーションにおける会話力が必要である。その一方で，日本での就職を希望する学生には読解力や文章作成能力を含めた高レベルの日本語力が求められる。そこで本年度は日本語科目の内容を大幅に見直し，初級文型のみを用いた口頭コミュニケーションに特化した授業(A1)から，高度な婉曲表現を伴う会話や文書表現によるビジネスコミュニケーションの授業(D2)まで，学生がそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択することが可能となるようにした。

(1) 日本語 A1(前期)

担当:山路奈保子　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:初級～初中級　　受講者数:12名

使用教材:『聞く・考える・話す　留学生のための日本語会話』ほか

内容:初級で習得した文型を身近な会話の中で運用できるようになることをめざし，大学生活の中で遭遇する可能性の高い場面設定でロールプレイなどを用いた会話練習を行った。

(2) 日本語 A2(後期)

担当:山路奈保子　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:初中級　　受講者数:7名

使用教材:『研究留学生の日本語』

内容:研究室でのコミュニケーションや学内外の人々との社会・文化的テーマでの会話における理解力や表現力を高めるための語彙・表現や文化的知識を導入し，会話練習を行った。

(3) 日本語 B1(前期)

担当:山路奈保子　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:中級　　受講者数:16名

内容:科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事などを材料に，大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに，抽象的な事柄を説明する文章を自分で組み立てられるようになることをめざした総合的な訓練を行った。

(4) 日本語 B2(後期)

担当:山路奈保子　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:中級　　受講者数:13 名

内容:日本語によるスピーチ・プレゼンテーションの技能を身につけるため，本を紹介するスピーチを競う「ビブリオバトル」を授業に導入し，聞きやすい話しかたとわかりやすい構成のしかたの指導を行った。

(5) 日本語 C1(前期)

担当:門沢健也　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:上級　　受講者数:22名

授業内容:なまの新聞記事を教材として，実際の情報伝達，ジャーナリズムで使われるような，高度でかつ正式な日本語表現の理解読解の訓練を行った。また，それぞれのトピックに関する時事問題や日本の文化・習慣・歴史・生活用語などについて解説した。

(6) 日本語 C2(後期)

担当:門沢健也　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:上級　　受講者数:16名

授業内容:上記の前期の授業を継続する形で，新聞記事の読解を行った。

(7) 日本語 D1(前期)

担当:山路奈保子　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:上級　　受講者数:10名

授業内容:日本企業への就職を視野に，込み入った内容を印象的かつ要領よく伝える方略や聞き手に対する配慮のしかたの実践的なトレーニングを行った。

(8) 日本語 D2(後期)

担当:山路奈保子　　時間数:1．5時間(1 回)／週

レベル:上級　　受講者数:6名

授業内容:　ビジネス会話やビジネスメールにみられる高度なコミュニケーション戦略について，会話教材や漫画，実際のメールなどを素材に観察・考察を行った。

7.4　学部・大学院共通科目

(1) 異文化交流B

担当:門沢健也　　時間数:1．5時間(1 回)／週

受講者数:24名

日本語教員の担当科目の中で，「異文化交流A」は，カリキュラム上の位置付けは留学生だけのための日本語科目ではないが，日本人学生と留学生が共同して学ぶこと自体を目的とした，特色ある科目である。今年は留学生15人と日本人学生20人ずつ，合計35人を受講し，受講者が興味のあるテーマを自分たちで設定し，留学生と日本人を含む小グループで，そのテーマについて事前に調べ，授業で発表し，その後全体で討論を行う，という授業である。

これまでに受講者が選んだテーマの例をいくつか挙げると，「各国の教育事情・就職事情」，「死刑・脳死臓器移植・安楽死の是非」，「各国の恋愛・結婚事情，家族関係」，「美容整形手術の是非についての各文化による味方の違い」，「ものごとをはっきり言う文化と言わない文化の比較と長所・短所の検討」，「ネットによるコミュニケーション，ソーシャルネットワークの長所と短所」など多岐に亘り，受講した学生の満足度も高いと感じている。特に今年度は，受講した学生のモティベーションが非常に高く，活発でしかも楽しい討論が繰り広げられた。特に日本人学生の意見発表・プレゼンテーションの意欲・能力の向上に非常に寄与していると感じた。

ただ，今年度は受講希望者が多く，希望度も高かったので，人数を制限することなく35人で授業や討論を行ったが，やや人数が多すぎて，意欲は高かったにもかかわらず，ひとりひとりの発言の機会が相対

的に少なくなった印象がある。来年度への検討課題である。

(2)新冠農業実習(社会体験実習)

国際交流センター自体の所轄ではないが，国際交流センターの専任教員が発案し実施を担当している，本学の特色ある実習科目の一つに，「新冠農業実習」がある。

工学を志し，工学を学び，そして多くは工学を生涯のなりわいと為す，という工業大学の学生たちに，ちょっと視点を変えて農業を体験させるのはどうだろうか。それが新たな自己を発見したり新しい価値観や職業観をはぐくむ契機となり，人生を豊かにしたり生きるための力を与えてくれるのではないだろうか。—そんな発想から，2001(平成13)年度から，日高管内新冠(にいかっぷ)町の篤農家グループの協力を得て，同地域での農業実習を正規の科目として導入した。この新冠農業実習は，毎年 10〜20 人の学生を新冠町の水田・畑作・酪農・肉牛・軽種馬・養鶏などの農家に分けて10日間寄宿させ，家族の一員として生活をともにしながら，農作業や農家の生活を体験させようというもので，参加した学生には「社会体験実習」の2単位が与えられる。

参加した学生たちは，10 日間の実習で，日ごろ慣れないきつい労働を経験して，疲れや筋肉痛を訴えながらも，恒例の実習最後の閉講式では，「食糧生産の大切さとその現場の苦労を知った」「農家の人々の明るさとエネルギーから元気をもらった」「農業の中で工業技術がどのように求められているかを身をもって知ることができた」などの感想を力強く述べる。

2011 年度の第 10 回まででこの実習に参加した学生は 170 人以上に達し，2009 年からは国内の提携大学である東京都市大学の学生にも参加の門戸を開放し，また留学生の参加も増えるなど，学生たちにとって，異業種・異文化・異世代，そして国際交流のまたとない機会となっている。

特に今年度の特徴は，参加学生12名のうち4名が女子学生であったこと(本学の女子学生の割合は約9%)と，東京都市大学の学生の参加がこれまでで最高の3名だったことであり，例年の女子学生の積極性が改めて表れたのと，東京都市大学との連携の絆がさらに強まったと感じている。

また今年度は，実習開始前に，特に「工業大学・工業系の学生が農業を体験することの意味は何か」と「その農業実習を担当しているのが国際交流センターの教員であることの意味は何か」という二つの疑問を提示し，実習終了後のレポートで自分の考えを示すように指示したところ，そういった格別のテーマを与えなかった前年までと比較して，明らかに参加学生が主体的にこれらの課題について，深く考察し，レポートの内容に活かして書いてきたことが非常に印象的であった。それにしたがって，レポートの内容自体も，内容が深く，中身濃いものになったことが，うれしい収穫であった。

この農業実習のような実習科目でも，事前に学生が興味・関心を持つような疑問や考えるテーマを提示し，それについて考えさせることは，非常に重要なことだと気づかされた。

7.5 大学院共通科目

(1)国際関係論特論

担当:門澤健也，山路奈保子

受講者数:9名(博士前期課程1年)

内容:「異なる文化背景を持つ人(人々)同士が接触するときに，どのような問題が起きるか」を大きなテーマに，最初の授業でアンケートを行い，学生が関心のあるテーマいくつか提示させて，それに沿って，アジアを中心にした日本と近隣各国の歴史について講義と討論を行った。

また，授業に本学の留学生6名を招き，各国の文化やものの考え方・日本のそれとの違いについて討論を行った。さらに海外留学を経験した本学の日本人学生も招き，留学の体験談や意義について語ってもらった。その後，質疑応答や討論もおこなったが，学期が終わったときの授業アンケートでは，このような討論形式・自分の意見を発表できる場があったことが好評であった。

この授業は国際交流センター教員2名が講義を担当したほか，学内の教員も講師役に迎え，異なる視点からのさまざまな考え方に触れる機会を設けた。

８． 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは，大学の内外を問わず広く市民の皆さんとともに，世界のさまざまな国や地域について勉強し合い，国際的な視野を拡げることを目的としている。

講演者との質疑応答

(1) 第 38 回 室蘭工大国際セミナー

開 催 日:2011 年 12 月 2 日(金)
参加人数:約 70 名(市民，学生，教職員を含む)
テ ー マ:ケニア，メキシコ異文化の下での国際交流
～2 人の青年海外協力隊経験者が語る～
講 演 者:ケニアで理数科教師 ～ポレポレの国での2年間～
佐賀 昭美
1987(昭和 62)年より青年海外協力隊員(理数科教師)としてケニアに派遣。

タコスとおにぎり ～異文化の中の自分～
益子 浩
2001(平成 13)年より２年間，JICA 青年海外協力隊としてメキシコで活動。

(2) 第 39 回 室蘭工大国際セミナー(学内向け)

開催日:2011 年 12 月 5 日(月)
参加人数:約 20 名(教職員)
テ ー マ:プリアゾフスキ―国立工科大学との国際協力
講演者:～変形による相変態の影響に基づく新機能合金の創造及び強化理論～
プリアゾフスキー国立工科大学 副学長 オレクサンドル・チェリアッカ 氏
～ロシアとウクライナにおける耐アブレシブ摩耗材料の開発と応用～
プリアゾフスキー国立工科大学 教授 バジル・エフレメンコ 氏

オレクサンドル・チェリアッカ氏の講演

９．留学生を対象とした行事，研修等

9.1 国際交流センター主催行事

(1) 留学生オリエンテーション及び新入学留学生歓迎交流会

開 催 日:2011 年 4 月 28 日(木)

参加人数:約 140 名(チューター，教職員を含む)

新たな留学生に対して留学生関係教職員の紹介を行い，日本での生活上の注意事項を説明した。同時に在籍中の留学生及びチューターを紹介し，その後新入学留学生歓迎交流会を行った。

オリエンテーション風景

交流会，各国の料理が並ぶ

(2) 国際交流センター談話室オープンセレモニー

開 催 日:2011 年 6 月 3 日(金)

参加人数:約 30 名

国際交流センター事務室隣に談話室が完成したのを記念して、オープンセレモニーを開催した。

佐藤学長の挨拶

野口国際交流センター長の挨拶

(3) 外国人留学生等見学旅行

開 催 日:2011 年 8 月 17 日(水)～19 日(金)

参加人数:60 名(留学生家族，教職員を含む)

北海道内の自然や特有の産業施設等の見学を通じて，留学生が北海道の文化，歴史，産業等についての知識や理解を深めることを目的として，今年度は旭川方面へ2泊3日の日程で実施した。

≪日程≫

8/17	工大～美唄市　日本理化学工業(工場見学)～寿楽(昼食)～JAびばい米殻雪冷温貯蔵施設「雪蔵工房」(施設見学)～北竜町　ひまわり畑～サンフラワーパークセンター(施設見学)～ホテル(泊)(旭川ワシントンホテル)

8/18	ホテル～旭川市　北海道伝統美術工芸村～ファイブスター旭川店（昼食）～北海道立総合研究機構建築研究本部～旭山動物園～ホテル（夕食・泊）（旭川ワシントンホテル）
8/19	ホテル～美瑛町　北西の丘展望公園～四季彩の丘～上富良野町　トリックアート美術館～富良野市　ホテルナトゥールヴァルト富良野（昼食）～富良野チーズ工房～丘の写真館～富良野マルシェPA～工大

JA びばい米穀雪冷温貯蔵施設「雪蔵工房」（施設見学）

北海道立総合研究機構建築研究本部を見学

(4) 工場見学

開 催 日：2011 年 9 月 22 日（木）

参加人数：23 名（教職員を含む）

見学先：（株）日本製鋼所室蘭製作所，新日本製鐵（株），ニッテツ北海道制御システム（株）

留学生に対し，地元企業の工場を見学させることにより，工学の知識・理解を深めることを目的として実施した。

(株)日本製鋼所室蘭製作所にて

新日本製鐵(株)にて

ニッテツ北海道制御システム(株)にて

(5) 室蘭岳登山

開 催 日：2011 年 10 月 9 日（日）

参加人数：24 名（チューター，教職員を含む）

室蘭岳（標高 911 メートル）登山を実施し，10 月に来日した新しい留学生を含む 24 名が参加した。

室蘭岳白鳥ヒュッテの前で

秋晴れの山頂にて

(6) 10 月新入学留学生歓迎ウェルカムランチ

開 催 日:2011 年 10 月 14 日(金)

参加人数:15 名(チューター, 教職員を含む)

10 月に新しく来日した留学生, インターンシップ研修生が早く本学での生活に馴染めるよう, 歓迎会を開催し, 留学生同士, 国際交流センター教職員との交流を図った。

10 月に来日した新入学留学生

教員と留学生と共に

(7) 秋季見学旅行

開 催 日:2011 年 10 月 22 日(土)

参加人数:約 40 名(教職員を含む)

10 月以降に入学した留学生に室蘭・登別市内の観光名所を案内し, 両市に対する理解を深めさせるとともに, 留学生同士の交流を図る目的で実施した。

≪日程≫

10/22	工大～登別伊達時代村(見学, 昼食)～大湯沼川の天然足湯～白老ポロトコタン(アイヌ民族博物館見学)～祝津展望台(室蘭夜景)～工大

登別伊達時代村にて

白老ポロトコタンにて

(8) 生活安全講習会

開 催 日:2011 年 11 月 17 日(木)

参加人数:70 名

交通事故, 火災, 地震及びインターネット犯罪などの事件・事故の防止のため, 生活安全講習会を開催した。室蘭工業大学で実際に起こった事故・事件について, また, 日本で安全に生活するための対処方法などを説明した。

講習会風景

室蘭警察署からの説明

(9) 冬道安全運転講習会，任意保険加入指導

開 催 日:2011 年 12 月

参加人数:5 名

自動車を所有する留学生を対象に冬道安全運転講習会を開催した。雪国での生活経験のない留学生が多いため，圧雪やアイスバーンといった冬道の特徴について細かく説明し，危険回避のためのハンドルやブレーキ操作の方法を指導した。また，任意保険加入指導も行った。

冬道の特徴を図解して説明

装備を点検，冬道運転実習へ

(10) 野外セミナー(スキー研修)

開 催 日:2012 年1月 10 日(火)

参加人数:74 名(留学生家族を含む)

場　　所:サンライバスキー場

南国出身が多く，冬期間部屋に閉じこもりがちな留学生に対して，北国の冬期間の楽しみ方を紹介した。

サンライバスキー場にて

（11） 留学生交流会

開 催 日:2012 年 2 月 27 日(月)

参加人数:約 260 名(留学生家族を含む。)

場　　所:蓬峠殿

日頃留学生がお世話になっている国際交流推進関係諸団体及び市民等を招待し，交流会を通して留学生との親睦を図るとともに，卒業・修了する留学生を祝福することを目的として開催している。

卒業生の挨拶

留学生によるアトラクション

佐藤学長と留学生

学長夫妻，卒業生を囲んで

9.2 学外の諸行事への留学生派遣，参加の状況

9.2.1 留学生派遣行事

開催日	主催	行事名	留学生派遣人数
2011 年 5 月 14 日	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流フェスティバル	6
2011 年 7 月 2 日	室蘭東ロータリークラブ	イタンキ浜清掃	6
2011 年 7 月 8 日	室蘭市立本室蘭小学校	国際交流教室	1
2011 年 8 月 11 日	嵐山の会	マレーシアについて学ぶ	1
2011 年 8 月 28 日	水元町内会	裸御輿	9
2011 年 8 月 30 日	中野農場	野菜の収穫	7
2011 年 9 月 7 日	市民オーケストラ	市民オーケストラ演奏会	17
2011 年 9 月 7 日	登別ロータリークラブ	例会での卓話	2

2011 年 9 月 8 日	ソロプチミスト室蘭	例会での卓話	1
2011 年 11 月 26 日	室蘭港立市民大学	室工大留学生との集い	6
2011 年 11 月 29 日	室蘭市立本輪西小学校	国際交流教室	2
2011 年 12 月 15 日	室蘭ロータリークラブ	歳末家族親睦会	4
2011 年 12 月 20 日	室蘭市立絵鞆小学校	国際交流教室	2
2012 年 1 月 12-22 日	NTT 東日本室蘭支店／ニイハオ基金	カレンダーリサイクル市手伝い	15
2012 年 1 月 24 日	室蘭市立旭ヶ丘小学校	国際交流教室	1
2012 年 2 月 10 日	室蘭市立八丁平小学校	国際交流教室	3
2012 年 2 月 18 日	室蘭ルネッサンス	交流懇談会	2
2012 年 2 月 28 日	室蘭北ロータリークラブ	国際奉仕フォーラム	4
2012 年 1～3 月	室蘭社会福祉協議会	雪かきボランティア	5
合 計			94

留学生による市立八丁平小学校訪問

室蘭東ロータリークラブ主催イタンキ浜清掃にて

9.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	留学生参加人数
2011 年 5 月 3 日	ウエルカム パーティー	室蘭国際交流センター	29
2011 年 7 月 2 日	噴火湾海洋動物観察協会	イルカ・鯨ウォッチング	53
2011 年 7 月 30 日	むろらん港まつり	市民おどり	31
2011 年 11 月 19 日	装道礼法きもの学院北海道認可連盟	きものの集い	2
2011 年 12 月 3 日	室蘭国際交流センター	Exchange Muroran「餅つき体験」	25
2011 年 12 月 30 日～1 月 2 日	（独法）国立青少年教育振興機構	日本のお正月を体験しよう!	2
2012 年 2 月 11 日	室蘭市国際交流推進協議会	雪まつり見学会	42
2012 年 2 月 19 日	室蘭国際交流センター	さよなら着物パーティー	21
合 計			205

(1) 「ウエルカム　パーティー」

主　　催：室蘭国際交流センター

開 催 日：2011 年　5 月 3 日(火)

参加人数：29 名

室蘭国際交流センターの主催により，新たに室蘭市民となった新入学留学生を対象とした交流会が開催され，お寿司調理体験やゲームなどを通じ，市民の皆様との交流を深めた。

手巻き寿司の作り方を教えてもらう新入学留学生

(2)　イルカ・鯨ウォッチング

主　　催：噴火湾海洋動物観察協会

開 催 日：2011 年　7 月 2 日(土)

参加人数：53 名

噴火湾海洋動物観察協会の招待により，室蘭沖の海洋生物に関するレクチャーの後，室蘭沖の自然と海洋動物を観察するイルカ・鯨ウォッチング体験乗船に参加した。

海洋動物についてのレクチャーを受講

観察船ベルーガに乗船

沖を泳ぐイルカを観察

(3)むろらん港まつり 「総参加市民おどり」

主催：むろらん港まつり実行委員会

開 催 日：2011 年 7 月 30 日(土)

参加人数：約 31 名

むろらん港まつりのイベントの1つである「総参加市民おどり」に留学生が参加し，大学職員とともに室蘭ばやしや北海盆唄を踊りながら街を練り歩き，日本のお祭りを体験した。

練習の成果を披露

市民おどりを終えて，大学長，大学マスコットのむろぴょんと共に

(4) 雪まつり見学会

主催：室蘭市国際交流推進協議会

開 催 日：2012 年 2 月 11 日（土）

留学生参加人数：40 名

室蘭市国際交流推進協議会の主催による留学生とその家族を対象としたガイダンスとして，さっぽろ雪まつり見学会が開催された。雪まつり大通り会場の他，札幌市青少年科学館を見学した。

札幌青少年科学館を見学

札幌雪まつり大通り会場の大きな氷像の前で

(5) さよなら着物パーティー

主催：室蘭国際交流センター

開 催 日：2012 年 2 月 19 日（日）

留学生参加人数：21 名

室蘭国際交流センターの主催により，卒業・修了などで室蘭を離れる留学生とその家族を対象に着物の着付けと記念撮影会，ならびに食事会が開催された。

振り袖，紋付き袴姿の留学生達，佐藤学長夫妻と共に

お別れ会の様子，心づくしの手作りのお料理を囲んで

10. 学術交流協定校との交流

10.1 協定校等への訪問

(1) フィンランド アアルト大学

訪 問 先:アアルト大学電気工学部

訪問日程:2011年8月31日(水)から9月4日(日)

訪 問 者:大学長 佐藤 一彦

しくみ情報系領域教授 鈴木 幸司

しくみ情報系領域准教授 渡邉 信也

訪問内容:学術交流協定調印, 大学視察ならびに交流内容の協議

アアルト大学電気工学部にて協定締結

学術交流協定について会談

(2)ベトナム ハノイ建築大学

訪 問 先:ハノイ建築大学

訪問日程:2011年11月14 日(月), 15日(火)

訪 問 者:くらし環境系領域教授 木幡 行宏

訪問内容:学術交流協定更新, 大学視察ならびに今後の交流についての協議

交流提携校の名前を記したプレートの前で

ハノイ建築大学の教職員とのミーティング

(3)ハンガリー　ミシュコルツ大学

訪　問　先:ミシュコルツ大学

訪問日程:2012 年1月9日(月)

訪　問　者:もの創造系領域教授　佐藤孝紀

もの創造系領域准教授　川口　秀樹

ゼネラルマネジャー　清家　孝行

訪問内容:大学視察, 交流内容の協議ならびに研究室訪問

ミシュコルツ大学表敬訪問

ミシュコルツ大学研究室訪問

(4)オーストリア　レオベン大学

訪　問　先:レオベン大学

訪問日程:2012 年1月 11 日(水)

訪　問　者:もの創造系領域教授　佐藤孝紀

もの創造系領域准教授　川口　秀樹

ゼネラルマネジャー　清家　孝行

訪問内容:大学視察, 交流内容の協議ならびに主要講座の研究説明

レオベン大学にて学術交流について協議

レオベン大学にて研究室訪問

10.2 外国，協定校等からの訪問受け入れ

(1) 駐日ドイツ大使の本学訪問と講演会開催

訪問日程:2011 年 5 月 9 日(月)

訪 問 者:駐日ドイツ大使 フォルカー・シュタンツェル

駐日ドイツ大使館員 2 名

訪問内容:表敬訪問，日独交流150周年記念基調講演「工学技術分野における日独関係」

学長表敬訪問

基調講演を行う駐日ドイツ大使

(2)インドネシア・21世紀東アジア青少年大交流計画インドネシア高校生訪日団

訪問日程:2011 年7月1日(金)

訪 問 者:インドネシア高校生 20 名

インドネシア高校生引率者 2 名

訪問内容:「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS プログラム)」の一環としてインドネシア高校生が来学し，研究室訪問・交流を行った。

研究室を訪問し真剣に説明を聞くインドネシア高校生

研究室訪問の後に，本学教員・日本人学生と共に

(3)韓国　湖南大学

訪問日程:2011 年7月 20 日(水)

訪 問 者:湖南大学産学協力中心大学育成事業団団長

YANG SEUNGHAK 教授

湖南大学の教務処長, 企画処長,

教授の全 9 名

湖南大学訪問団を迎えて会談

(4) 中国　河南理工大学

訪問日程:2011 年 11 月 21 日(月)

訪 問 者:河南理工大学副学長　景　国勛 教授

電気工程自動化学学部長 余　発山 教授

教育技術センター長 張　治斌 教授

人文科学・法学部長 穆　乃堂 教授

安全科学工学副学部長　牛　国慶 教授

国際交流センター課長　孫　衛東 氏

訪問内容:11 月 20 日(日)　景副学長と河南理工大学出身留学生の交流会

11 月 21 日(月)大学紹介

航空宇宙機システム研究センター見学

ものづくり基盤センター見学

学長表敬訪問

周辺地域視察

河南理工大学による学長表敬訪問

ものづくり基盤センター訪問

(5) ロシア　極東工科大学

訪問日程:2011 年 10 月 22 日(土)

訪 問 者:極東工科大学副学長 Alexey Belov

訪問内容:大学訪問ならびに学術交流についての

意見交換, シンポジウム打合せ

右奥より極東工科大学 Belov 副学長と板倉教授

(6) 中国 寧波工程学院

訪問日程:2011 年 12 月 2 日(金)

訪 問 者:機械工程学院 院長 胡 如夫

機会工程学院 講師 李 占涛

訪問内容:大学訪問ならびに開発技術研究会への参加

機械工程学院胡院長から記念品贈呈

前列左より，本学博士後期課程修了の李占涛講師，胡院長

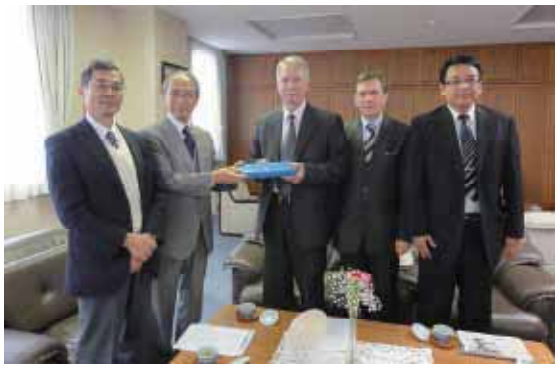
(7) ウクライナ プリアゾフスキー国立工科大学

訪問日程:2011 年 12 月 5 日(月)から 7 日(水)

訪 問 者:プリアゾフスキー国立工科大学副学長 Alexandu Cheiliakh

プリアゾフスキー国立工科大学冶金工学科教授 Wasily Efnemeuko

訪問内容:表敬訪問，学術交流・共同研究についての意見交換ならびに基調講演



学長表敬訪問

チェリアッカ副学長による基調講演

(8) 台湾 大葉大学

訪問日程:2012 年 3 月 23 日(金)

訪 問 者:大葉大学応用日本語学科

准教授 黄 英哲

訪問内容:表敬訪問，学術交流・共同

研究についての意見交換

黄准教授（前列中央）

10.3 共同セミナー，共同事業等の実績

（1）タイ・チャンマイ大学との合同セミナー「MIER2012」

日　時：2012 年１月９日（月）から１８日（水）

開催地：室蘭工業大学および登別

主　催：本学機械航空創造系学科／機械創造工学系専攻 機械システム工学コース及び
国際交流センター，タイチェンマイ大学

概　要：チェンマイ大学の教員 9 名・学生 10 名ならびに本学の学生・教職員合わせて 60 名以上が参加してシンポジウムを開催すると共に，学内外の施設見学や体験学習等を通じ交流を深めた。

MIER2012 シンポジウムにて

（2）韓国・韓国海洋大学とのジョイントセミナー「第 7 回 KMK」

日　時：2011 年８月２２日（月）

開催地：韓国　釜山

主　催：釜山海洋大学，九州工業大学，本学建築社会基盤系学科／建築社会基盤系専攻
及び国際交流センター

本学からの参加者：くらし環境系領域　岸 徳光 教授，木幡行宏 教授，吉田 英樹 准教授，
有村幹治 助教，博士前期課程 2 年次 3 名の全 7 名

概　要：３つの大学機関において土木工学に関する教育や研究などの交流を深めるために
開催された。本学より教員１名および学生３名がプレゼンテーションを行った。

韓国海洋大学訓練船視察の様子

（３）その他

○「第４回国際大学交流セミナーin 大阪 2011」のタイ・キングモンクット工科大学ラカバン校との共同開催

日　時：2011 年１０月１９日（水）～２１日（金）

開催地：大阪

参加者：くらし環境系領域　大坂谷 吉行教授，本学学生５名，
　　キングモンクット教員２名，同大学生７名

概　要：キングモンクット工科大学ラカバン校が幹事校となり実施しているユニネット（UniNet）の遠隔授業（Tele-Conference）を実施した。

○“Workshop: From Blue Pigment to Green Energy (Cobalt mines-skutterudite -Thermoelectrics)”

ワークショップ（日本，ノルウェー，アメリカ，オーストリアの研究者間国際交流）

もの創造系領域　関根ちひろ 准教授

○ “Online Cooperative Language Learning”

オンライン教育管理システム「ムードル」で本学と RMIT の学生が語学学習を行う

ひと文化系領域　ハグリー エリック トーマス 講師

○「第５回日本・中国・韓国国際シンポジウム」

長寿命建築物のためのコンクリート性能向上に関する国際シンポジウム

くらし環境系領域　溝口　光男 教授

10.4 その他の交流

(1)中国人留学生同窓会総会

訪 問 先:中国 内モンゴル自治区赤峰市

訪問日程:2011 年8月13日(土), 14日(日)

訪 問 者:副学長 岩佐 達郎
　　くらし環境系領域 教授 後藤 龍彦
　　国際交流センター 准教授 門沢 健也

訪問内容:中国人留学生同窓会総会への出席, 在中国卒業生のネットワーク化への支援

中国人留学生同窓会総会

東日本大震災被災学生への寄付に対する本学からの感謝状を囲んで

11.　学生の海外への派遣

11.1　短期留学

（1）学生氏名：　　鈴木　孝明

所属：　　機械創造工学系専攻 MC２年

派遣先：　　チェンマイ大学（タイ）

期間：　　6 か月（2011 年 9 月～2012 年 2 月）

経済支援：　　日本学生支援機構短期留学支援奨学金　月額 ８万円

研究室での活動

歓迎会での一コマ

11.2　ロイヤルメルボルン工科大学（RMIT）　語学研修

期間：　2011 年 8 月 22 日（月）～9 月 7 日（水）
内容：　海外学術交流協定提携校における英語研修，オーストラリア文化体験，学生交流

参加者：5 名（男子 3 名，女子 2 名）
佐々木　瞭　　機械航空創造系学科 3 年
林　祐一郎　　機械航空創造系学科 2 年
松岡　勇樹　　機械航空創造系学科 1 年
浦上　茜　　情報電子工学系学科 3 年
清水　茉椰　　応用理化学系学科 3 年

その他参加者：東京都市大学の学生 2 名（男子 1 名，女子 1 名）

引率：　門沢健也　ひと文化系領域准教授，国際交流センター専任教員
宮下慎也　国際交流センター　スタッフ

REW の英語授業を終えて

メルボルン市内の高校生との交流

11.3　ヨーロッパ語学研修

期間：　2012 年 2 月 29 日（水）～3 月 16 日（金）
内容：　①英語の語学研修　②企業・博物館の見学　③ヨーロッパの文化体験
（訪問地：ドイツ，フランス，チェコ，ルクセンブルク）

参加者：１３名（男子８名，女子５名）
田辺　真　　建築社会基盤系学科２年
臼田　峻曹　　建築社会基盤系学科２年
宮本　雄大　　建築社会基盤系学科１年
玉尾　みなみ　建築社会基盤系学科１年
横田　瑞峰　　建築社会基盤系学科１年
中村　彰吾　　建築社会基盤系学科１年

谷川　尚喜　　機械航空創造系学科２年
桂田　哲志　　機械航空創造系学科１年
関沢　麻菜美　情報電子工学系学科２年
紺野　ありさ　情報電子工学系学科２年
岡部　美花　情報電子工学系学科２年
井上　雅司　応用理化学系学科２年
陶山　忍　応用理化学系学科２年
小山　瑠衣　応用理化学系学科１年
樫村　美香　応用理化学系学科１年
野口　侑加奈　応用理化学系学科１年
渡邊　貴裕　機械創造工学系専攻 MC２年
南部　真友子　情報電子工学系専攻 MC２年

その他参加者：東京都市大学の学生１名（男子１名）

引率：　クラウゼ=小野・マルギット ひと文化系領域准教授，国際交流委員

ミーティング

研修中の一コマ

11.4　タイ・スタディーツアー

期間：　2012 年 3 月 1 日（木）～3 月 16 日（金）
内容：　チェンマイ大学の学生との交流，学内施設，工学部などの見学
近郊の企業・工場の見学，チェンマイの寺院，遺跡，建築，博物館などの見学
チェンマイ北部の山岳民族の村を訪ねる見学ツアーチェンマイから南へ約１２０キロ離れた，世界文化遺産「スコータイ遺跡」の見学

参加者：3 名（男子 1 名，女子 2 名）
赤沢　悠太　　機械システム工学科 4 年
清水　茉椰　応用理化学系学科 3 年
その他１名参加

引率：　門沢健也　ひと文化系領域准教授，国際交流センター専任教員

研修中のゾウに乗っての移動

スコータイ遺跡見学

11.5　ソウル科学技術大学校サマースクール

期間：　2011 年 8 月 9 日（火）～8 月 20 日（土）

内容：　初級韓国語の学習，韓国の文化（韓国の現代音楽，伝統行事，伝統衣装）の学習
ソウル科学技術大学の学生との交流，ソウル市内，博物館等の見学

参加者：2 名（男子 1 名，女子 1 名）

中野渡広祐　　応用理化学系専攻 MC1 年

戸田　聡美　応用理化学系学科 3 年

サマースクール開講式

11.6　台湾・大葉大学短期研修

期間：　2012 年 3 月 4 日（日）～3 月 11 日（日）

内容：　中国語研修・台北市内の日系企業訪問・大葉大学日本語学科の学生交流

参加者：4 名（男子 3 名，女子 1 名）

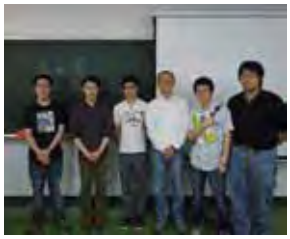
一力　聡子　　建築社会基盤系学科 3 年

阿部　貴弘　　機械航空創造系専攻 MC2 年

矢島　淳　　機械航空創造系専攻 MC2 年

角井　良彰　　情報工学科 4 年

研修中の一コマ



大葉大学材料工学科でのプレゼンテーション

11.7　佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞

賞の由来と趣旨

本奨学賞は，医学博士で博士（工学）である佐藤矩康先生のご寄附によって，2009 年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表，海外での研究プロジェクト参画，海外インターンシップなど，国際的な場で活動し，成果を上げることを支援し，奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和２年，北海道富良野町に生まれ，北海道大学医学専門部を卒業後，医師，医学博士として医業に従事される傍ら，多年，刀剣考古学の研究に携わり，平成 18 年「X 線 CT 法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士（工学）の学位（主査　桃野正教授）を授与されました。また長年，私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が，学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり，ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

佐藤矩康博士

故佐藤矩康（さとう　のりやす）博士　略歴

昭和　２年４月　北海道上富良野町生まれ
名寄小学校，名寄中学校を経て，
昭和 25 年３月　北海道大学医学専門部卒業
昭和 25 年４月　北海道立札幌医科大学内科学教室入局　医師
以後　日高門別町 町立病院内科医長，南幌町 町立病院院長　等を歴任
昭和 34 年 10 月　札幌市白石区にて，眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療所」開設
平成 12 年４月　信佑会吉田記念病院医師，聖愛会発寒中央病院医師
平成 23 年９月　逝去

本奨学賞は，年２回募集し，８名程度に各１０万円を授与する。

【2011 年度前期受賞者】
・王　飛（創成機能科学専攻 DC３年）
・楠本　賢太（機械創造工学系専攻 MC２年）
・盧　波（生産情報システム工学専攻 MC２年）
・中里　直史（物質工学専攻 DC１年）
・中沢　恵太（機械システム工学科４年）
・沢田　真唯香（建築社会基盤系学科３年）

【2011 年度後期受賞者】
・三上　慎太郎（機械創造工学系専攻 MC１年）
・永田　航太郎（情報電子工学系専攻 MC１年）
・李　セロン（情報電子工学系専攻 MC１年）

11.8　国際体験報告会・海外インターンシップ説明会

留学経験者と佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者の報告と海外インターンシップの意義と効果を広く PR し，これを実施する IAESTE※（国際学生技術研修協会）の研修生募集試験への応募を勧誘する目的で，キャリアサポートセンターと共同で実施した。

平成２３年度前期開催分

開催日時：７月２２日（金）
場　　所：教育・研究３号館Ｎ棟　Ｎ３１０講義室
参加学生数：約３０名

国際体験報告会

講 演 者

① 留学経験者報告
森田　拓愛（情報電子工学系専攻 MC2 年）
2009 年 9 月～2010 年 1 月　ハンガリー・ミシュコルツ大学に留学

② 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者報告
劉　　群 坡（生産情報システム工学専攻 DC２年）
Thailand-Japan International Symposium in Industrial Engineering , Mechanical Engineering and Robotics 2010　での論文発表
2010 年 11 月 22～23 日，タイ・チェンマイ
坂本　牧葉（生産情報システム工学専攻 DC２年）
SICE Annual Conference 2010 in Taiwan での論文発表
2010 年 8 月 18～21 日，台湾・台北
元茂　朝日（応用理化学系専攻 MC２年）
MACRO2010 43rd IUPAC World Polymer Congress　での論文発表
2010 年 7 月 11～16 日，イギリス・グラスゴー

③ IAESTE・海外インターンシップ説明会
藤原　賢彰（機械創造系専攻 MC2 年）
2010 年 8 月～9 月　ハンガリー・ブタペストでインターンシップ
沢田　真唯香（建築社会基盤系学科３年）
2010 年 9 月～10 月　クロアチアでインターンシップ

※IAESTE（国際学生技術研修協会）
国際インターンシップを促進する非営利・非政府組織で，世界 80 カ国に支部（委員会）があり４，０００社を超える企業とのネットワークがある。

平成２３年度後期開催分

開催日時：１０月２４日（月）

場　　所：教育・研究３号館Ｎ棟　Ｎ１０１講義室

参加学生数：約２０名

講 演 者

①　留学経験者報告

太田　篤志（機械システム工学科４年）

２０１０年９月～２０１１年３月　ハンガリー・ミシュコルツ大学に留学

②　海外インターンシップの報告

中沢　恵太　（機械システム工学科４年）

２０１１年８月　　タイ・チョンブリでインターンシップ

（JODC 海外インターンシップ事業）

沢田　真唯香（建築社会基盤系学科３年）

２０１１年９月～１０月　クロアチアでインターンシップ

③　IAESTE・海外インターンシップ説明会

IAESTE について：野口センター長，澤田　真唯香

海外インターンシップについて：高井キャリアセンター長

海外インターンシップ体験について報告

国際体験について質問応答

12. 外国人短期研修生，外国人研究員，外国人インターンシップ研修生受入れ

12.1 外国人短期研修生受入れ

(1)RMIT日本語研修生受入

期　間:2011 年 11 月 5 日(土)～17 日(木)

内　容:　本学の交流協定校であるオーストラリアロイヤルメルボルン工科大学(以下RMITとする。)とのスタディーツアー及び学生交換に関する協定の合意事項実施のため，研修生を受入れる。研修は，本学での日本語による講義及び本学の学生との交流，北海道の自然や文化施設等の見学により，オーストラリアとは違った文化，歴史等についての知識・理解を深めることを目的とする。

参加者:RMIT研修生10 名，RMIT引率者1名

ＲＭＩＴ学生交流での一コマ

本学の英語の授業に参加

(2)泰日工業大学短期研修生受入

タイ・泰日工業大学から 2011 年 4 月 17 日から 5 月 28 日まで研修予定であったが，東日本大震災の影響のため，中止となった。

12.2 外国人インターンシップ研修生受入れ

インターンシップ研修生受入れ制度は，外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生で，本学において実施する研究，実験，解析，設計，製作等の研修プログラムに参加することである。2011 年度は下記のとおり 4 名のインターンシップ研修生を受け入れた。

氏名	国	大学	受入期間	受入教員
Ankur Gupta	インド	Indian Institute of Technology-Bombay	2011.5.12-2011.7.15	平井伸治
KELIGER KAROLINA	ハンガリー	University of Miskolc	2011.8.1-2011.10.21	清水一道
TARASOVA ELENA	ロシア	Far Eastern Federal University	2011.10.1-2011.10.31	媚山政良
IONOV VLADIMIR	ロシア	Far Eastern Federal University	2011.10.1-2011.10.31	媚山政良

ロシアのインターンシップ研修生 2 名と媚山教授

インド工科大学からのインターンシップ研修生

12.3 外国人研究員受入れ

本学重点研究プロジェクト「希土類研究プロジェクト」の一環で，協定を締結しているニコラエフ無機化学研究所から 1 名，ヨッヘ物理技術研究所から 2 名の博士研究員を雇用し共同研究を行った。

氏名	国	大学等	期間	事業名	受入教員
Sharenkova Nataliia	ロシア	ヨッヘ物理技術研究所	2011.3.1-2011.5.31	希土類研究プロジェクト(本学)	平井伸治
Solovyev Sergey	ロシア	ヨッヘ物理技術研究所	2011.6.1-2011.8.31	希土類研究プロジェクト(本学)	平井伸治
Nikolaev Ruslan	ロシア	ニコラエフ無機化学研究所	2011.10.1-2011.12.31	希土類研究プロジェクト(本学)	平井伸治
満　都拉	中国	内蒙古師範大学	2011.10.1-2011.10.31	中国人材育成事業((独)国際協力機構)	岩佐達郎

13. 国際交流クラブ

国際交流クラブは，本学の公認課外活動団体（学生サークル）で，1994 年に，その当時の留学生（院生）数人が中心となり，自分たちより年若い日本人の学生たちに，親睦と交流を呼びかける形で発足した。

当時は留学生の数がまだ少なく，またほとんどが修士か博士の大学院生，また家族随伴の留学生も多く，講座の研究室を除いては留学生と日本人学生（特に学部生）との接点や知り合う機会がほとんどないのが実情であった。当時の留学生は，せっかく日本に留学したのに日本人学生と交友を持つ機会が少ないことに残念さと危機感を持ち，学内に立って日本人学生にチラシを渡すところから活動を始めたのだった。

それに対して，意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され，以来 20 年が経過して留学生の数も出身国も増え，また学部生の留学生も増えたことから，現在は留学生・日本人合わせて部員が５０人以上の大きなサークルとなった。

大学祭への参加や，お花見やジンギスカンなど，日本・北海道らしい活動をともにするほか，日常生活の中で留学生と日本人学生の交友・交流が見られるようになったのは，国際交流クラブの大きな功績といえる。また，留学生の母国を支援する教育基金の募金を行ったり，地震のような大きな災害があったときに日本人学生がともに募金活動を行ったりするような，社会性を持つ活動も行っている。

また，国際交流クラブの部員からの海外研修や海外インターンシップへの参加者，海外留学の希望者が確実に増えてきている。

国際交流センターも，国際交流センター専任教員が顧問教員を務めるほか，センターとして国際交流クラブの活動にさまざまの形で支援を行なっている。また国際交流センターが行う行事に国際交流クラブの部員が参加したり協力したり，海外研修などにも応募者を出すなど，国際交流センターと密に関係を保ちつつ，学生側の国際交流活動の窓口として，また主体として大いに活躍している。

国際交流クラブによる新入生歓迎会

14.　広報活動

14.1　国際交流センターホームページ

日本語版ＴＯＰページ

英語版ＴＯＰページ

14.2　英文概要，国際交流センター新聞

英文概要

国際交流センター新聞　第２号

14.3　オリジナルグッズ

Ｔシャツ（表）　　Ｔシャツ（裏）

フェイスタオル

ステッカー

ティッシュ

バック

14.4　広報活動グッズ

旗

15.　教員の研究活動（工学専門分野を除く）の成果

野口　徹

○著書（分担執筆）

野口　徹：第 2 章　機械要素（第 3 節　シャフト，物揚げ機）：服部敏雄編，「破壊力学大系―壊れない製品設計へ向けて―」，（NTS 出版，）pp 27-42，2012 年 2 月

○講演

野口　徹：「暮らしの中の材料・強さと破壊のはなし－なぜ物は壊れる？　どうして事故は起こる？－」，室蘭工業大学公開講座，室蘭（室蘭工業大学），2011 年 8 月，9 月

野口　徹：「破損解析の手法と各種事故調査への応用」，高圧力技術協会秋季大会特別講演，室蘭（日本製鋼所室蘭製作所），2011 年 10 月

野口　徹：「事故原因調査への破損解析技術の応用－破面の見方と破損事例－」，日本保全学会東北北海道支部講習会，仙台（東北大学），2011 年 11 月

野口　徹：「金属の破壊とその調べ方」，北海道アルミニウム研究会講演会，苫小牧（トヨタ北海道），2012 年 2 月

野口　徹：「基盤産業技術の重要性と大学の工学研究の役割」，北海道機械工業会室蘭支部講演会，室蘭（ホテルサンルート），2012 年 3 月

門澤健也

○講演

門澤健也：「北海道の歴史，文化と自然について」
チェンマイ大学・室蘭工業大学合同国際シンポジウム（ＭＩＥＲ２０１２），登別グランドホテル，２０１２年１月１２日

門澤健也：「チェンマイ大学スタディーツアーにおけるインターンシップ説明会」
チェンマイ大学，２０１２年３月５日

山路奈保子

○論文

Margit Krause-Ono and Naoko Yamaji, Assessing Factors Involved in University-Level Foreign Students' Satisfaction, 室蘭工業大学紀要，第61号，pp57-62 (2012)

○研究発表

Margit Krause-Ono and Naoko Yamaji, Factors Necessary to Increase University-Level Foreign Students' Satisfaction, 異文化間教育学会第32回大会　2011年6月11日　お茶の水女子大学,

山路奈保子・因京子・佐藤勢紀子「日本人学部生の書き言葉習得―学年による違い，留学生との比較―」第14回専門日本語教育学会研究討論会　2012年3月3日　一橋大学

李セロン・須藤秀紹・山路奈保子「外国語教育への書評の導入がその効果に与える影響」第39 回知能システムシンポジウム　2012 年 3 月 15 日　千葉大学

○研究討論会パネル

山路奈保子「日本の理系大学の状況と現在のニーズ」　国際研究討論会『研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発』　2012 年 2 月 5 日　東京海

洋大学品川キャンパス

〇講演

山路奈保子 :「日本語の愉しみ，異文化の愉しみ」室蘭ロータリークラブ講話　2012 年 3 月 8 日

〇外部資金

科学研究費補助金　基盤研究(B)　「研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発」研究代表者：大島弥生　（研究分担者）

科学研究費補助金　基盤研究(C)　「大衆文化作品を利用した看護コミュニケーション技能教育の方法開発」研究代業者：因京子　（研究分担者）

16.　国際交流センターに関する新聞記事等

震災義援金 17万円寄託

室工大中国人留学生

東日本大震災で被災した学生を支援しようと、室蘭工業大学中国人留学生同窓会（満都拉会長）は13日、人民元など約17万7500円を義援金として同大に寄託した。

昨年10月に設立した同窓会には約50人が加入。同窓生の多くは中国の大学で教員や学生として学んでいる。地震や津波で大きな被害が出たことから、義援金を募った。

この日は中国人留学生校友会のキョウ・ガン会長ら3人が佐藤一彦学長に義援金を手渡し、「室蘭工業大学で学生のために活用するよう」と話した。

（佐藤重伸）

佐藤学長に義援金を手渡すキョウ・ガン会長

3年連続100人超え

室工大留学生

ウェルカムパーティーで手巻きずしを食べながら交流する室工大留学生。3年連続で100人を突破一2日、宮城県内初の国際交流センター

中国、マレーシアなど10カ国から

室蘭工業大学（佐藤一彦学長）で学生留学生が10月末で100人となった。3年連続の100人超えとなる。市民生涯学習センターでパーティーが開かれ、中国やマレーシアなど10カ国から留学生が集まり、交流を深めた。

同大の留学生の推移をみると、1年前に100人、10年前に50人、20年前に10人と約20年間で10倍に増えている。マレーシアは38人で多いが、ここ数年は減っている。「学歴社会は変わらず、日本語を学ぶ人は多い」という。

中国人留学生は、ほとんどが国費留学生。日本語学校などを経て大学に進学する。

同センターでは、留学生の生活相談や日本語学習の支援などを行っている。

（佐藤重伸）

駐日大使が講演

室工大

日露交流150周年

日露の歴史関係について語るアレクサンドル駐日大使

日露交流150周年を迎え、室蘭工業大学で記念講演が行われ、ロシアのアレクサンドル・ジガンツィン駐日大使が、「日露関係の歴史」をテーマに講演した。

大使は、ロシアの学生時代、日本語を学んでいたことから、日本に関する知識を深めるため、日露関係の歴史を調べたことなどを紹介した。

また、ロシアの学生が日本の学生と交流することで、両国の関係が良くなるとの期待を示した。

（佐藤重伸）

室工大が感謝状

9/28(火)

室蘭工業大学（佐藤一彦学長）は27日、東日本大震災で被災した室蘭市水元町12の「食事処小梅」（向屋子店主）と義援金を寄せた同大中国人留学生校友会のジャン・イエン会長が出席。佐藤学長からそれぞれ感謝状を受け取った。

この日、同大事務局小会議室で贈呈式が行われ、向店主と同窓会の代理で中国人留学生校友会のジャン・イエン会長が出席。佐藤学長から感謝状を受け取った。

佐藤学長は「本学の学生への温かい善意に感謝しています」と述べた。

向店主は10人の学生に食事を提供して生活を支えている。同窓会は義援金を集め、4月13日に約17万7500円を届けた。

（佐藤重伸）

感謝状を受け取る向店主

露研究機関と協定

室工大が学術交流で

特大ジンギスカン鍋に驚き

（3）　2011年(平成23年)7月2日(土曜日)

インドネシアから高校生

室工大

留学生3人入学

室工大で宣誓式

（15）　2011年(平成23年)10月4日(火曜日)

3人が入学した室工大の10月期入学者宣誓式

博士後期課程 日々研さん

室蘭工業大学（佐藤一彦学長）の平成23年度10月期入学者宣誓式が3日、同大本部棟小会議室で開かれ、留学生3人が大学院博士後期課程に入学した。

入学したのは中国2人、タイ1人。3人の入学により同大で学ぶ留学生は9人となった。

佐藤学長は「世界に通じる専門的な能力を身に付けてほしい。大学として最高学位をもって応えたい」と述べた。

この後、入学者代表で中国出身のイルさん(28)が「私たちは学問分野の研究に努めることを誓い、学ぶ」と宣誓を行った。（佐藤重伸）

佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞

室工大生6人

学生が取り組む国際活動を支援する「佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞」の授与式が15日、同大で開かれ、人の学部・大学院生が受賞した。

室蘭工業大学（佐藤一彦学長）の学生が取り組む国際活動を支援する「佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞」の授与式が15日、同大で開かれ、人の学部・大学院生が受賞した。

佐藤学長は「室工大の研究者が海外で活躍し、研究成果が海外で高く評価されている。平成18年には「X線CT法による古刀のはがね構造の解析」によって同大から工学博士の学位を授与されている。佐藤は内科医の傍ら、古い刀の研究でも知られている。平成18年には「X線CT法による古刀のはがね構造の解析」によって同大から工学博士の学位を授与されている。佐藤は「室工大の研究者が海外で活躍し、研究成果が海外で高く評価されている。」と話した。

同賞は学生が海外で論文発表や研究プロジェクト参画、インターンシップなどに参加する際に支援する。学生から申請を受け、観光面接などを経て選抜される。今回は8人が応募。これまで今年度は6人を合格とした。

学年3年、佐藤さん(21)は「現地でなければできない仕事や体験をして今後につなげたい」と意欲満々だ。

（佐藤重伸）

「佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞」の授与式

「ほしい」と800万円を寄付。同大の21年度に奨学賞を創設。

3週間のインターンシップで、タイのパイプ製造会社を訪問する機械システム工学科4年、中沢恵太さん(22)は「パイプの製造ラインの改造を手掛けたい。一生懸命に頑張りたい」と話していた。

また、クロアチアの建築会社に4週間、インターンシップで仕事をする建築学社会基盤系

一糸乱れぬ「室蘭ばやし」

1000人 リズム合わせ 市民おどり

青山市長も楽しむ

優雅

ものづくり満足

室工大と学術交流

豪大学生が鋳造体験

タイ出身の留学生 博士号を取得へ

室工大で初

日本のルール知って

室工大人留学生と同人数

初の講習会、生活全般アドバイス

「私の国のカレー甘いです」

室工大留学生と交流

異文化に興味津々

外国文化に興味津々

児童、室工大留学生と交流

ラオス、マレーシアの遊び体験

学術交流

中国、ウクライナの協定校 相次ぎ室工大訪問へ

夕刊 室蘭民報 MURORAN

12月3日 土曜日

活動成果、苦労話を紹介

室工大国際セミナー

留学生 よいしょ

元気つく 市民交流

楽しそうに餅を搗き下ろす室工大の外国人留学生たち

留学生 もちつきに挑戦

室蘭工業大学の外国人留学生たちにおもちつきを体験してもらう企画、室蘭市中島町の市国際コミュニティセンターで開かれた。

国際交流活動に取り組むボランティア団体「室蘭国際交流センター」（宇佐美祥子会長）が伝統文化を知ってもらおうと、マレーシ

「餅つき初めて 面白い」

室工大留学生、市民と交流

センター」（千人長、18）室蘭工大で、や家族を招餅つきを楽た。

同センター年目、世に茶道や習

金属材料 共同研究へ

ウクライナの国立工科大 留学生ら

交流協定1年 室工大で講演

室蘭民報 MIROMIN 夕刊 12月17日 土曜日

お国の料理で異文化交流

室工大 留学生、餅つきも体験

耐摩耗性5倍の合金

室工大と共同研究

木友千夏さん　ファイズル・ナハさん

20歳の誓い

異国で人生設計描く

やり甲斐のある仕事

NIE サンデーキッズ

学校で

議論のススメ

互いの国を理解し合う

2012.2.11 室蘭民報

マレーシア人のイヴァさんから教わり漁師踊りをする児童たち

けん、韓国の半田西小、魚をバケツに入れる動作などステップを踏みながらリズムカルに踊った。きらに二つのゲームも楽しみ、盛り上がった。

漁師踊りでは、男の子は海で舟をこぐ動作、女の子は捕まえた魚を数えるしぐさを学び、ゲームも楽しあった」と笑顔を浮かべていた。

（成田真由子）

室工大に別れ

松山理事　防災研究に力

野口理事　国際化に貢献

17.　室蘭工業大学国際交流ポリシー

室蘭工業大学国際交流ポリシー

（前文）
大学における研究活動のグローバル化はもとより，高等教育の国際市場化，大学卒業者雇用の国際化が進む情勢の中で，室蘭工業大学の国際交流の基本的な考え方を示し，教職員の活動，施策立案の指針とするために，本国際交流ポリシーを制定する。

1.　基本姿勢　　室蘭工業大学は「幅広い教養と深い専門知識とともに国際社会で通用するコミュニケーション能力，実践力を持つ人材を育成する」との目標を実現し，本学の基本理念に基づいて国立大学として期待される国際的機能を果たすために，教育および研究における国際交流を推進する。

2.　教育　　国際活動に必要なコミュニケーション能力とは，語学力のみでなく，積極性，行動力，自国および他国の文化に対する理解等を含む幅広い実践力であり，留学生を含む本学学生の全てがこのような能力を持つよう，教育上の努力をする。教職員もまた高いコミュニケーション能力を涵養し，国際的に貢献する。

3.　研究　　教員は研究成果を世界に発信するとともに，海外機関との交流を推進して，研究の一層の活性化に努める。これはまた，学生の国際活動能力，研究能力向上のための教育活動でもあることを認識して研究を推進する。

4.　留学生受入れ　　各種の留学生を積極的に招致する。学部留学生，大学院留学生，その他の短期留学生の適切な配分に留意し，本学の教育研究に資する優秀な学生の招致に努める。またそのための受入れ体制，教育体制の整備，更新を推進する。

5.　地域貢献　　地域の国際交流に大学として貢献するとともに，地域の国際交流力を本学の国際活動，国際教育の推進に積極的に活用する。

6.　運営　　上の国際交流推進のため，教育プログラム，施設および学習環境，広報および海外ネットワーク，事務体制およびリスク管理体制，ならびに，これらに必要な予算措置について，長期的な展望をもってその整備を進める。

（付記）
国際交流とは，本学教職員学生による教育，研究上の，海外機関および外国人との交流活動全般をさす。研究成果の国際的発信および研究教育上の交流，各種留学生の受入れと教育，本学学生の国際性教育に関わる外国機関，外国人との交流，事務職員の国際活動を含む。

18.　おわりに

国際交流センター准教授　山路奈保子

いろいろな国の日本語教育研究者が集まる，ある小規模な会合で聞いた話です。東日本大震災と原発事故の影響で大学の日本語専攻志望者が世界中で減る中，なぜかロシアでは志望者が増えたそうです。なぜ？と出席者みんなが首をひねる中，ロシア人の先生はこともなげに言いました。「震災で日本のことがたくさん報道されて，それで日本という国に興味を持ったのでしょう」そしてこのように付け加えました。「ロシア人は就職がよさそうだとか，そういう理由で大学の専攻を選んだりしません。純粋な興味で選びます」さすが知の伝統を誇るロシア，と一同感心しました。

ロシアの文化はさておき，震災がなくても日本という国の世界での位置づけは変わりつつありました。もはや経済においても技術・研究においても突出した存在ではなくなり，かつては日本へ留学することそのものがその後の社会的な成功を保証すると考えられていたのが，今や日本は数多の選択肢の一つにすぎなくなりました。留学する意義そのものも，「より進んでいるところで学ぶ」ことより「自分が育った環境と異なる社会・文化の中で学ぶ経験をする」ことに重点が移ってきているように思います。これから日本の大学が留学先として選ばれるとすれば，それは，優位性による機械的な選択ではなく，具体的な特色でもって選ばれるということになるでしょう。

さて，室蘭工業大学は魅力的な選択肢となり得るでしょうか？前国際交流センター長による巻頭言にあるとおり，2011 年度に国際交流ポリシーが制定されました。ポリシーの作成過程で我々の特色とは何かを考えると，それは「地域性」であろう，というのがワーキンググループのメンバーの一致した意見でした。室蘭は地理・気候・産業の上でも特色を持っていますが，何といっても地域の人々のホスピタリティーは大きな魅力です。この報告書で一年を振り返っても，地域の方々にはおおいにお世話になりました。

あとは学内の教育・研究環境をどのように魅力的で特色のあるものにしていくかです。我々国際交流センターのスタッフはそのために日夜奮闘しておりますが，さて皆様によるご評価はいかがでしょうか？本報告書をお読みいただいてのご意見・ご指摘・ご批判・ご感想・叱咤激励を心よりお待ち申し上げております。

室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

室蘭工業大学　国際交流センター

〒０５０－８５８５　室蘭市水元町２７番１号

http://www.muroran-it.ac.jp/

E-mail:kokusai@mmm.muroran-it.ac.jp

ＴＥＬ：（０１４３）４６－５８８５

ＦＡＸ：（０１４３）４６－５８８９